新専門医制度 内科領域

日本赤十字社医療センター 内科専門研修プログラム

（2026 年 5 月 20 日改訂）

内科専門研修プログラム	p.1
内科専門研修施設群	p.14
研修プログラム管理委員会・研修委員会	p.139
別表 1. 各年次到達目標	p.142
2. 週間スケジュール	p.143
専攻医研修マニュアル	p.144
指導医マニュアル	p.150

1. 理念・使命・特性など（整備基準 1,2,3）

1) 理念

日本赤十字社医療センター内科専門研修プログラム（以下「本研修」「本研修プログラム」とする）では，東京都内のいわゆる都市型の医療のみならず地方都市での医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され，国民から信頼され，日本の医療を支える内科専門医の育成を行います.

本研修プログラムでは，基幹施設である日本赤十字社医療センターおよび連携施設の指導医の指導のもとで，3 年間のうちに，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，内科領域全般の診療能力に必要な知識と技能とを修得します．内科領域全般の診療能力とは，臓器別の内科系 subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力で，また，知識や技能に偏らずに，患者に人間性をもって接すると同時に，医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養を有し，様々な医療環境で全人的な内科医療を実践する能力です．内科の専門研修では，幅広い疾患群を経験していくことによって，内科の基礎的診療を繰り返して学び， その際に単なる繰り返しではなく、疾患や病態によって、特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験もできることに特徴があります．そして，これらの経験を単に記録するのではなく，病歴要約として，科学的根拠や自己省察を含めて記載し，複数の指導医による指導・評価を受けることによって，リサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります.

2) 使命

内科専門医には疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて，市民の健康に積極的に貢献することが求められています．内科専門医が多様な医療現場で活動し， 最新の医療を提供し，臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時に，チーム医療を円滑に運営することが内科専門医の使命です.

3) 特性

本研修プログラムでは，日本赤十字社医療センターを基幹施設として，当該医療圏，近隣医療圏，および地方都市にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い，超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるようにトレーニングされます．研修期間は基幹施設合計 2 年間＋連携施設・特別連携施設合計 1 年間の 3 年間です．本研修プログラムでは，担当の患者を主担当医として入院から退院まで受持ち，患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．

基幹施設である日本赤十字社医療センターは豊富な症例数を誇り，地域の病診・病病連携の中核である一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，専攻医はコモンディジーズのみならず，複雑な病態を持った患者の診療や，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．また，緩和ケア科の症例を持つことによって緩和・終末期ケアの経験をし，併設の訪問看護ステーションとの関係を通じて，さらに多面的な視点を獲得できます．

基幹施設および連携施設・特別連携施設での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，120 症例以上を経験し，専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できると考えられます．専門研修 2 年修了までには 29 症例の病歴要約の提出を完了し，3 年修了までには 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験をすることができます（別表 1「各年次到達目標」参照)．

4) 専門研修の成果

内科領域の専門医の使命は，1)高い倫理観を持ち，2)最新の標準的医療を実践し，3)安全な医療を心がけ，4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．内科専門医のかかわる場は多岐にわたりますが，それぞれの場に応じて，

1）地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
2）内科系救急医療の専門医
3）病院での総合内科（generality）の専門医
4）総合内科的視点を持った subspecialist

に合致した役割を果たし，国民の信頼を獲得します．ただし，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることもあります．いずれにしても内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と general なマインドが重要です．

本研修施設群での研修はこれらの成果を目指します．また，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療に携わることのできる実力を獲得することも目指します．Subspecialty 重点コースでは将来的な subspecialist となることを見据えた研修も可能です．さらには，高度・先進的医療を行う施設，リサーチマインドをさらに掘り下げることのできる施設での研修も可能であり，これらも本研修プログラムで期待できる成果です．

2. 募集専攻医数(整備基準 27･32)

下記 1)～6)により，本研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 7 名とします．

1） 日本赤十字社医療センター内科後期研修医は現在 3 学年併せて 23 名で，毎年 7～8 名の採用実績があります．

2）剖検体数は 2022 年度 14 体，2023 年度 14 体、2024 年度 11 体です.
3）外来患者診療を含め，1 学年 7 名に対し十分な症例を経験可能です.
4） subspecialty13 領域のうち 11 領域にわたる診療科を有しています。(p.14「日本赤十字社医療センター内科専門研修施設群」参照).
5） 1 学年 7 名までの専攻医であれば，専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表)」に定められた 45 疾患群，120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です.
6） 専攻の 3 年間を通じて 1 年間研修する連携施設・特別連携施設には，高次機能・専門病院，地域基幹施設および地域医療密着型病院を含み，専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です.

表．日本赤十字社医療センター診療科別診療実績

2024 年度実績	入院患者実数（人/年）	外来延患者数（延人数/年）
消化器内科	1,064	23,099
循環器内科	911	12,916
血液内科	1,002	24,733
糖尿病内分泌科	258	15,573
腎臓内科	429	16,951
呼吸器内科・感染症科	1,057	17,658
神経内科	197	8,256
化学療法科	204	3,030
膠原病・アレルギー内科	63	8,683
救急科	421	9,386
緩和ケア科	228	946

3. 専門知識・専門技能とは（整備基準 4,5）

1) 専門知識（「研修カリキュラム項目表」参照）

専門知識の範囲（分野）は総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病及び類縁疾患，感染症，ならびに救急で構成されます．「研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における解剖と機能，病態生理，身体診察，専門的検査，治療，疾患などを目標（到達レベル）とします．

2) 専門技能（「技術・技能評価手帳」参照）

内科領域の基本的「技能」とは，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，医療面接，身体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します．さらに全人的に患者・家族と関わっていくことや，他の subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります．これらは特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません．

4. 専門知識・専門技能の習得計画（整備基準 4-15,41）

1) 到達目標（別表 1「各年次到達目標」参照）

主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．各年次の到達目標は以下の基準を目安とします．

(1) 専門研修（専攻医）1 年:

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，20 疾患群以上を経験し，J-OSLER の研修ログにその研修内容を登録します．また，専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して J-OSLER に登録します．

・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，subspecialty 上級医とともに行うことができます．

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い，担当指導医がフィードバックを行います．

(2) 専門研修（専攻医）2 年:

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，通算で 45 疾患群以上を経験し，J-OSLER に登録します．

・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，subspecialty 上級医の監督下で行うことができます．

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．

(3) 専門研修（専攻医）3 年:

・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験します．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上（外来症例は 20 症例まで）を経験し，登録します．指導医は専攻医として適切な経験と知識の修得ができていることを確認して承認します．また，既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は，日

本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受け，受理（アクセプト）されるまで改訂を重ねます．専門研修修了には，すべての病歴要約 29 症例の受理と，少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 120 症例以上の経験を必要とします．

・技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができます．

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談して判断し，さらなる改善を図ります．

本研修ではプログラムを修了するまでの最短期間は３年間としますが，修得が不十分な場合，研修期間を１年単位で延長することができるものとします．また，「Subspecialty 重点コース」を設け，積極的に subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます．

2) 臨床現場での学習

1. 定期的に開催する各診療科のカンファレンスや内科合同カンファレンスを通じて，病態や診断過程の理解を深め，多面的な視点や最新の情報を得ます．また，プレゼンターとして情報検索能力とコミュニケーション能力を向上させます．
2. 総合内科を含む内科外来を担当するほか，ローテーション中の各診療科外来や，Subspecialty 重点コースでは Subspecialty 診療科外来を，少なくても週 1 回・1 年以上担当して経験を積みます．
3. 各診療科救急対応，当直を含んだ内科救急外来，および Subspecialty 救急対応（Subspecialty 重点コース）で救急診療の経験を積みます．

3) 臨床現場を離れた学習

1)内科領域の救急対応，2)最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，3)標準的な医療安全や感染対策に関する事項，4)医療倫理，医療安全，感染対策，臨床研究や利益相反に関する事項，5)専攻医の指導・評価方法に関する事項などは、以下の方法で研鑽します．

1. 定期的に（週 1 回程度）開催する各診療科での論文抄読会
2. 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設：年 2 回実施　専攻医は年に 2 回以上受講）
3. CPC（基幹施設：2026 年度～年 4 回開催）
4. 研修施設群合同カンファレンス（年 2 回実施）
5. 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：渋谷区医師会日赤合同カンファレンス，循環器科渋谷区パス大会，循環器科渋谷区公開クルズス，東京循環器病研究会，城南呼吸器疾患研究会，城南気道疾患研究会，城南間質性肺炎研究会，渋谷目黒世田ヶ谷糖尿病カンファレンス，城南消化器検討会，東京肝癌局所治療研究会，都内肝臓臨床検討会，東京神奈川劇症肝炎研究会，消化器医療連携研究会，臨床に役立つ漢方勉強会，など）
6. JMECC 受講（基幹施設：2015 年度より年 1 回開催）
   （内科専攻医は専門研修終了までに 1 回受講）
7. 内科系学術集会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照）

8. 各種指導医講習会や JMECC 指導者講習会
など

4) 自己学習

「研修カリキュラム項目表」では，知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類，技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる），B（経験は少数例だが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，または判定できる），C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類，さらに，症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した），B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した)），C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています．自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します．

1. 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
2. 日本内科学会雑誌にある Multiple Choice Questions (MCQ)
3. 日本内科学会の行っているセルフトレーニング問題
など

5) 研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム

J-OSLER を用います．同システムでは以下を Web ベースで日時を含めて記録します．

・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 120 症例の研修内容を登録します．指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います．

・指導医による専攻医の評価，メディカルスタッフによる 360 度評価，専攻医による逆評価を入力して記録します．

・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学 会病歴要約二次評価査読委員（二次査読）に よる外部評価とフィードバックを受け、指摘 事項に基づく改訂がアクセプトされるまでシステム上で継続します．

・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステム上に登録します．

・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会等）の出席をシステム上に登録します．

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス（整備基準 13,14）

本研修施設群でのカンファレンスの概要は施設ごとに実績を記載しています（p.14「日本赤十字社医療センター内科専門研修施設群」参照）．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては基幹施設の「教育研修推進室」が把握し，定期的に専攻医に周知します．

6. リサーチマインドの養成計画（整備基準 6,12,30）

本研修プログラムでは次のような学問的姿勢を涵養します.

1. 患者から学ぶという姿勢を基本とする.
2. 科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM; evidence-based medicine).
3. 最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習).
4. 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う.
5. 症例報告を通じて深い洞察力を磨く.

7. 学術活動に関する研修計画（整備基準 12）

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら深めてゆく姿勢です．この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります．このため，症例の経験を深めるための学術活動と教育活動を目標として設定します.

教育活動

1. 初期研修医や医学部学生の指導を行う.
2. 後輩専攻医の指導を行う.
3. メディカルスタッフを尊重し，指導を行う.

これらのことを通じて，内科専攻医としての教育活動を行います.

学術活動

1. 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須).
（日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系 subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨）
2. 経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います.
3. 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います.
4. 内科学に通じる基礎研究を行います.

（上記のうち 1-3 は筆頭演者または筆頭著者として，学会あるいは論文発表を 2 件以上する）

また，本研修プログラムでは，専攻医は 1 ヶ月に 3 回程度開催される「内科合同カンファレンス」などに出席し，かつプレゼンターとして発表することなどによって，リサーチマインドを涵養するとともに臨床研究の推進をします.

8. 医師としての倫理性，社会性など（整備基準 7）

内科専門医とした高い倫理観と社会性を有することが要求されます．具体的には以下の項目が要求されます．本研修プログラムではこれらについて積極的に研鑽する機会を与えます.

1. 患者とのコミュニケーション能力
2. 患者中心の医療の実践
3. 患者から学ぶ姿勢

4. 自己省察の姿勢
5. 医の倫理への配慮
6. 医療安全への配慮
7. 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
8. 地域医療保健活動への参画
9. 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
10. 後輩医師への指導

9. 地域医療における施設群の役割（整備基準 11,28）

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修が必須です.

本研修施設群は基幹施設である日本赤十字社医療センター，東京都第二次保健医療圏域・区西南部医療圏の連携施設，および，近隣医療圏と地方都市の医療圏の連携施設・特別連携施設から構成されています．日本赤十字社医療センターは当該医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です．一方で地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズはもちろん，複雑な病態を持った患者の診療経験や高次病院・地域病院との連携も経験できます．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけることができます.

連携施設・特別連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，高次機能・専門病院，地域基幹施設，地域医療密着型病院で構成されています．高次機能・専門病院では高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療　などを研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養も身につけます．地域基幹施設では日本赤十字社医療センターとは異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養も積み重ねます．地域医療密着型病院では地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します.

10. 地域医療に関する研修計画（整備基準 28,29）

本研修プログラムでは，地域の医療の中核として病病・病診連携を担う基幹施設における研修と，地域住民に密着して病病連携や病診連携を依頼する立場でもある連携施設・特別連携施設における研修を行うことによって地域医療を幅広く研修することができます.

11. 内科専攻医研修(モデル)(整備基準 16)

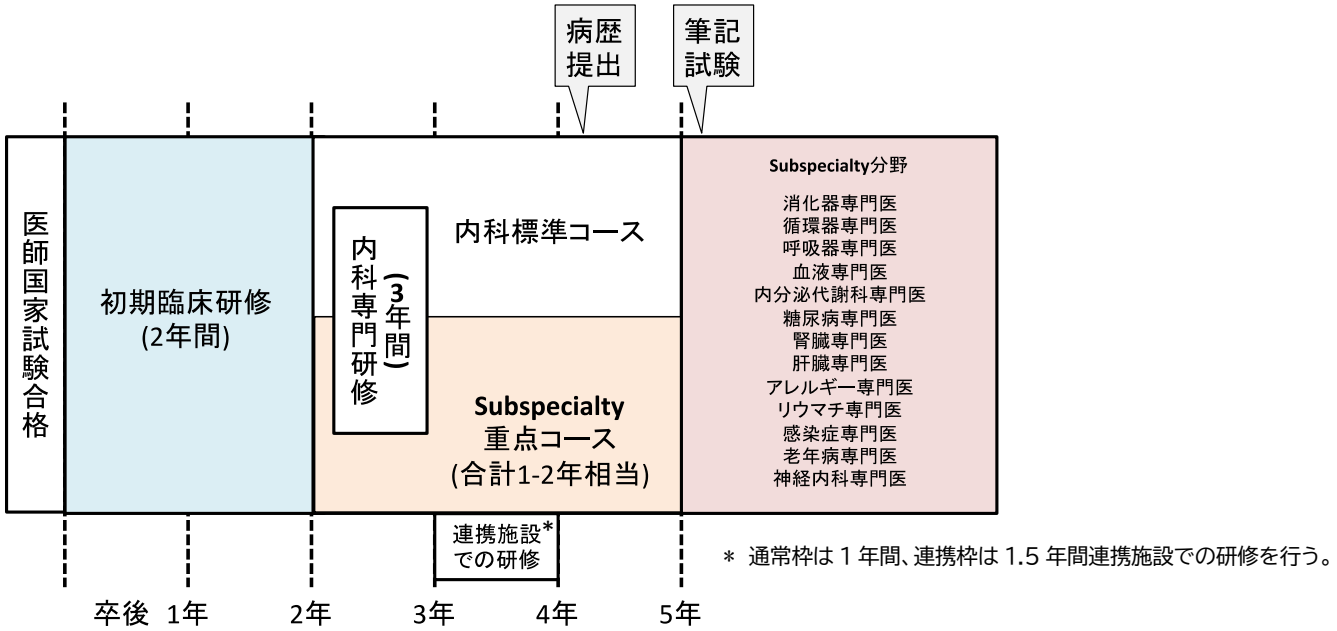


図. 日本赤十字社医療センター内科専門研修プログラム

基幹施設である日本赤十字社医療センター内科で，専門研修（専攻医）3 年間のうち，合計 2 年間の研修を行います．また，3 年間の中で合計 1 年間，専攻医の希望・将来像などを基に選んだ連携施設・特別連携施設での研修を行います．複数の連携施設・特別連携施設で研修する場合もあります（1 ヶ所につき 3 ヶ月以上)．本研修はあくまで内科専門医研修が主ですが，Subspecialty 重点コースでは合計 1-2 年間相当の subspecialty 研修をオーバーラップして行います（平行研修)．開始・終了・継続性は研修生ごとに設定します．

12. 専攻医の評価時期と方法(整備基準 16, 17,19-22, 53)

1) 日本赤十字社医療センター教育研修推進室の役割

・本研修プログラム研修委員会の事務局を担当します．

・医療倫理講習の出席を追跡します．

・年に複数回（8 月と 2 月を予定)，定期的に，自己評価，指導医による評価，他職種によるメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行います．他職種による内科専門研修評価は無記名方式で，統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し，その回答は担当指導医が取りまとめ，J-OSLER に登録します．その結果は J-OSLER を通じて集計され，担当指導医から専攻医にフィードバックを行い，改善を促します．

・内科プログラムに関する日本内科学会事務局との連絡を担当します．

・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します．

・院外研修における連携施設との事務手続きに対応します．

2) 専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人につき 1 人の担当指導医が本研修プログラム研修委員会により決定されます.

・専攻医は Web にて J-OSLER にその研修内容を登録し，指導医はその履修状況の確認をシステム上で行い，フィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.

・専攻医は各年次の到達目標（p.4）を達成できるようにし,それぞれの年次で登録された内容はその都度，担当指導医が評価・承認します．担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理されるように，病歴要約について確認し，指導を行います．専攻医は，内科専門医二次評価査読委員（二次査読）による外部評価とフィードバックを受け，指摘事項に基づく改訂がアクセプトされるまで修正を図ります.

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や教育研修推進室からの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と subspecialty の上級医は，専攻医が充足していない「研修手帳（疾患群項目表)」内の疾患を経験できるように主担当医の割り振りを調整します.

3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い，基幹施設あるいは連携施設の研修委員会で検討します．その結果を年度ごとに本研修プログラム管理委員会で検討し，プログラム統括責任者が承認します.

4) 修了判定基準

(1) J-OSLER に以下の全てが登録され，かつ担当指導医が承認していることをプログラム管理委員会が確認して修了判定会議を行います.

1. 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群のすべてを経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができる）を経験することを目標とします．その研修内容を J-OSLER に登録します．但し修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる）を経験し，登録しなければなりません（別表 1「各年次到達目標」参照).
2. 所定の受理（アクセプト）された 29 編の病歴要約
3. 所定の 2 編の学会発表または論文発表
4. JMECC の受講
5. プログラムで定める講習会の受講
6. 指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）の結果に基づき，医師としての適性に疑問がないこと

(2) 本研修プログラム研修委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約 1 か月前に本研修プログラム研修委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います.

5) プログラム運用マニュアル･フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」,「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は，J-OSLER を用います．なお，本プログラム「専攻医研修マニュアル」(別冊）と「指導者マニュアル」(別冊）を別に示します.

13. 専門研修管理委員会の運営計画(整備基準 34,35,37-39)

(p.139「研修プログラム管理員会・研修委員会」参照)

本研修プログラムの管理運営体制の基準

a) 研修プログラム管理委員会にて，基幹施設と連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります．研修プログラム管理委員会は，プログラム統括責任者，副プログラム統括責任者，および委員で構成され、その下部組織として基幹施設および連携施設に当該施設にて行う専攻医の研修を管理する研修委員会を置きます．研修委員会は委員長が統括し、subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科部長）などによって構成されます．また,オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させます（p.139「研修プログラム管理委員会・研修委員会」参照)．研修委員会の事務局を日本赤十字社医療センター教育研修推進室におきます．

b) 研修委員会の委員長は，基幹施設との連携のもと，活動するとともに，専攻医に関する情報を定期的に共有するために，定期的に開催する研修委員会の委員として出席します．基幹施設，連携施設ともに，毎年 4 月 30 日（予定）までに研修委員会に以下の報告を行います．

1. 前年度の診療実績
   a）病院病床数，b）内科病床数，c）内科診療科数，d） 1 か月あたりの内科外来患者数，e）1 か月あたりの内科入院患者数，f）剖検数
2. 専門研修指導医数および専攻医数
   a） 前年度の専攻医の指導実績，b） 今年度の指導医数と総合内科専門医数，c） 今年度の専攻医数，d）次年度の専攻医受け入れ可能人数
3. 前年度の学術活動
   a）学会発表，b）論文発表
4. 施設状況
   a）施設区分，b）指導可能領域，c）内科カンファレンス，d）他科との合同カンファレンス，e）抄読会，f）机，g）図書館，h）文献検索システム，i）医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会，j）JMECC の開催
5. subspecialty 領域の専門医数

14. 指導医層のフィードバック法の学習(FD)計画(整備基準 18)

指導法の標準化のため内科指導医マニュアル・手引き（改訂版）により学習します．また，厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します．指導者研修（faculty development，FD）フィードバック法の実施記録として J-OSLER を用います．

15. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)(整備基準 23,40)

労働基準法や医療法を順守します．基幹施設である日本赤十字社医療センターでの研修期間はその就業環境に，連携施設・特別連携施設での研修期間はそれぞれの施設での就業環境に基づき，就業します（p.14「日本赤十字社医療センター内科専門研修施設群」参照)．

基幹施設である日本赤十字社医療センターの整備状況

・初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院である.
・施設内に研修に必要な図書室とインターネット環境が整備されている.
・日本赤十字社医療センター常勤嘱託職員として適切な労務環境が保障されている.
・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課担当）がある.
・ハラスメント委員会が整備されている.
・女性専攻医が安心して勤務できるような更衣室，シャワー室，当直室が整備されている.
・敷地内にある託児施設が利用可能である.

専門研修施設群の各研修施設の状況については，p.14「日本赤十字社医療センター内科専門研修施設群」を参照. また，総括的評価を行う際に，専攻医および指導医は基幹施設や連携施設・特別連携施設に対する評価も行い，その内容は本研修プログラム管理委員会に報告され，労働時間，当直回数，給与などの労働条件についても適切に改善を図ります.

16. 内科専門研修プログラムの改善方法（整備基準 49-51）

1） 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います. 逆評価は年に複数回行います. また，年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設ごとに逆評価を行います. その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，および本研修プログラム管理委員会が閲覧します. また集計結果に基づき，本研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

2） 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

施設の研修委員会，本研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握します. 把握した事項については，本研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します.

1. 即時改善を要する事項
2. 年度内に改善を要する事項
3. 数年をかけて改善を要する事項
4. 内科領域全体で改善を要する事項
5. 特に改善を要しない事項

なお，研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難である場合は，専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

担当指導医，施設の研修委員会，本研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし，研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して研修プログラムを評価します. さらに，日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタします.

3) 研修に対する監査(サイトビジット等)・調査への対応

日本赤十字社医療センター研修プログラム管理委員会と教育研修推進室は，本研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ，対応します．その評価を基に，必要に応じて本研修プログラムの改善を行います．本研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改善の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します．

17. 専攻医の募集および採用の方法(整備基準 52)

本研修プログラム管理委員会は，Web での公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します．翌年度のプログラムへの応募者は日本赤十字社医療センター Web 上の採用情報に従って応募します．書類選考および面接が行われ，本研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します．

(問い合わせ先) 日本赤十字社医療センター 教育研修推進室
E-mail: rinsyokensyu@med.jrc.or.jp
URL: http://www.med.jrc.or.jp

本研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく J-OSLER にて登録を行います．

18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件(整備基準 33)

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムへの移動が必要になった場合には，J-OSLER を活用します．このことによって，これまでの研修内容が可視化され，移動先の新しいプログラムにおいても，移動後に必要とされる研修内容が明確になります．また，移動前の本研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会は，その継続的研修を相互に認証し，専攻医の継続的な研修を可能にします．他の内科専門研修プログラムから本研修プログラムへの移動の場合も同様です．

他の領域から内科領域の本研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了して新たに内科領域専門研修をはじめる場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに本研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，J-OSLER への登録を認めます．症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります．

疾病あるいは妊娠・出産，出産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム修了要件を満たしており，かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします．これを超える期間の休止の場合は研修期間の延長が必要です．短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1 日 8 時間，週 5 日を基本単位とする）を行なうことによって，研修実績に加算します．留学期間は原則として研修期間として認めません．

日本赤十字社医療センター内科専門研修プログラム

内科専門研修施設群

研修期間:3 年間(基幹施設合計 2 年間＋連携施設・特別連携施設合計 1 年間)

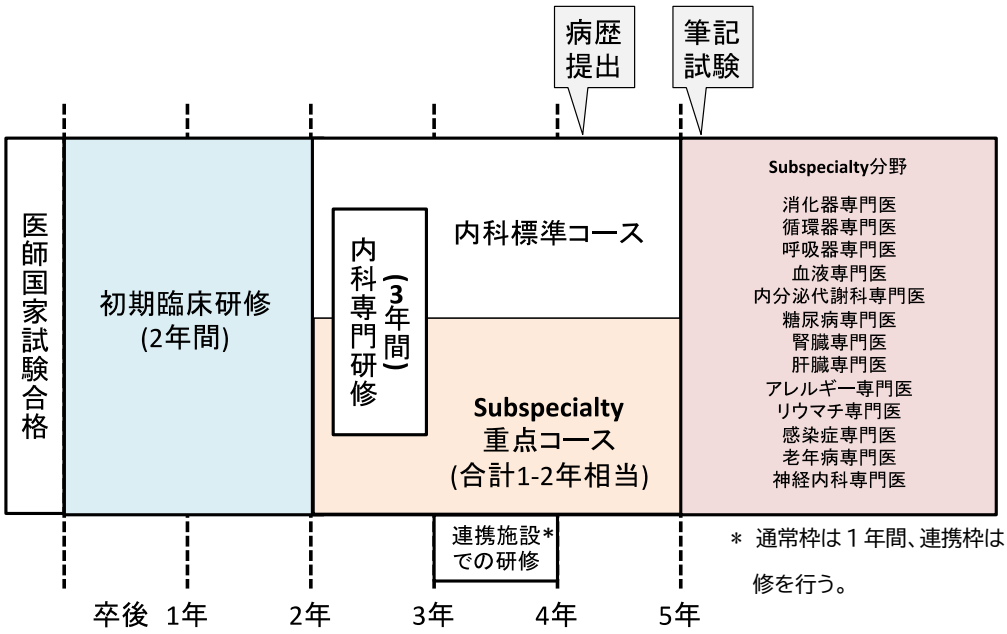


図. 日本赤十字社医療センター内科専門研修の概要

日本赤十字社医療センター内科専門研修施設群研修施設

表. 各研修施設の概要（施設のお申し出内容により、記載している年度が異なる）

	病院	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
基幹施設	日本赤十字社医療センター	645	167	11	30	36	6
連携施設	国家公務員共済連合会 三宿病院	244	151	7	13	21	6
連携施設	JR 東京総合病院	401	201	9	17	24	12
連携施設	がん研究会有明病院	644	256	27	18	46	7
連携施設	東京大学医科学研究所附属病院	135	100	4	16	14	6
連携施設	東京品川病院（旧 東芝病院）	440	145	10	25	15	7
連携施設	三井記念病院*	482	214	10	32	34	12
連携施設	大森赤十字病院	344	172	7	14	13	12
連携施設	東京逓信病院	461	175	8	27	25	11
連携施設	公立学校共済組合 関東中央病院	383	130	9	13	11	6
連携施設	北見赤十字病院	532	158	3	9	8	9
連携施設	相模原赤十字病院*	132	(注)	6	6	3	0
連携施設	地域医療機能推進機構仙台病院*	384	160	5	13	9	0

連携施設	東京大学医学部附属病院*	1,218	338	12	171	136	11
連携施設	杏林大学病院	1,060	350	10	74	42	45
連携施設	関東労災病院	610	245	10	23	14	17
連携施設	国立がん研究センター 中央病院	578	358	14	29	36	10
連携施設	国立がん研究センター東病院	427	266	21	20	22	2
連携施設	神奈川県立 循環器呼吸器病センター	239	199	3	13	15	3
連携施設	東京医科大学病院	**904**	**258**	**13**	**81**	**61**	**79**
連携施設	地域医療機能推進機構 東京新宿メディカルセンター	519	169	9	18	24	16
連携施設	さいたま赤十字病院	638	270	10	41	22	12
連携施設	千葉大学医学部附属病院	850	194	11	81	101	9
連携施設	船橋市立医療センター	449	138	8	23	19	6
連携施設	東邦大学医療センター大森病院	934	430	11	68	59	31
連携施設	株式会社麻生　飯塚病院	1,048	570	17	15	39	14
連携施設	静岡がんセンター	615	300	6	5	25	6
連携施設	虎の門病院分院	300	198	7	16	10	2
連携施設	横浜市立みなと赤十字病院	624	222	11	30	21	8
連携施設	茨城県立中央病院	500	200	12	36	28	5
連携施設	沖永良部徳洲会病院	132	60	6	1	0	0
連携施設	順天堂大学医学部附属順天堂医院	1,051	338	9	218	114	24
連携施設	松山赤十字病院	585	244	11	28	31	5
連携施設	秦野赤十字病院	308	106	6	3	5	1
連携施設	独立行政法人国立病院機構相模原 病院	458	211	8	22	17	13
連携施設	鶴岡市立荘内病院	521	221	5	5	7	4
連携施設	帝京大学ちば総合医療センター	475	148	7	13	11	12
連携施設	JCHO 東京山手メディカルセンター	418	154	8	26	11	10
連携施設	同愛記念病院	360	139	7	19	13	10
連携施設	岩手医科大学附属病院	1,000	－	8	68	41	12
連携施設	東北医科薬科大学病院	600	235	10	30	49	11
連携施設	自治医科大学附属 さいたま医療センター	628	206	10	37	46	26
連携施設	東京ベイ・浦安市川医療センター	344	130	8	30	16	10
連携施設	埼玉県済生会加須病院 （旧：埼玉県済生会栗橋病院）	304	144	8	9	9	3
連携施設	茨城東病院	320	160	2	5	4	0
連携施設	済生会熊本病院	400	142	8	43	43	2
連携施設	坪井病院	230	60	3	1	1	5
連携施設	東北大学病院	1,160	322	14	125	91	6
連携施設	徳島大学病院	671	154	7	51	64	12
連携施設	上尾中央総合病院	733	275	17	39	26	13
連携施設	山梨大学医学部附属病院	618	147	8	58	37	18
連携施設	総合病院国保旭中央病院	989	310	12	28	24	61

連携施設	横浜労災病院	650	230	11	26	28	8
連携施設	坂出市立病院	194	90	6	9	8	3
連携施設	大分大学医学部附属病院	618	175	11	33	55	8
連携施設	山口宇部医療センター	365	199	7	5	5	0
連携施設	聖マリアンナ医科大学病院	955	378	9	113	86	18
連携施設	横浜市立大学附属病院	654	216	13	79	51	19
連携施設	国際医療福祉大学　成田病院	642	300	10	40	32	15
連携施設	亀田総合病院	917	500	11	33	22	17
連携施設	長野赤十字病院	652	269	10	36	36	9
特別連携施設	浦河赤十字病院	146	146	1	2	1	0

（注）科による病床区分無

表. 各研修施設における内科 13 領域の研修の可能性

施設名	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
日本赤十字社医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国家公務員共済連合会 三宿病院	△	○	△	○	○	×	○	○	○	△	△	○	○
JR 東京総合病院	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○
がん研究会有明病院	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	×	○	×
東京大学医科学研究所附属病院	△	○	△	△	○	△	△	○	×	×	○	○	×
東京品川病院（旧 東芝病院）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
三井記念病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大森赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△*	○	○
東京逓信病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○
公立学校共済組合関東中央病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○
北見赤十字病院	○	○	○	△	△	○	○	○	△	×	○	○	○
相模原赤十字病院	○	○	○	○	△	○	○	△	○	△	△	○	○
地域医療機能推進機構 仙台病院	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○	○	○	○
東京大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
杏林大学病院	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
関東労災病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
国立がん研究センター中央病院	△	○	△	△	△	×	○	○	×	×	△	×	×
国立がん研究センター東病院	○	○	○	×	×	×	○	○	×	×	×	○	×
神奈川県立 循環器呼吸器病センター	△	×	○	×	×	×	○	×	×	○	×	○	×
東京医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
地域医療機能推進機構 東京新宿メディカルセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
さいたま赤十字病院	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×

千葉大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
船橋市立医療センター	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
東邦大学医療センター大森病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
株式会社麻生　飯塚病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
静岡がんセンター	×	○	△	×	×	×	○	○	○	×	×	○	×
虎の門病院分院						○					○		
横浜市立みなと赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
茨城県立中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
沖永良部徳洲会病院	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
順天堂大学医学部附属順天堂医医院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
松山赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
秦野赤十字病院	×	△	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
独立行政法人国立病院機構相模原病院	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○
鶴岡市立荘内病院	○	○	○	×	×	○	×	○	○	×	○	×	○
帝京大学ちば総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
JCHO 東京山手メディカルセンター	○	○	○	△	○	○	○	○	×	○	○	○	○
同愛記念病院	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	○
岩手医科大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○
東北医科薬科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
自治医科大学附属さいたま医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東京ベイ・浦安市川医療センター	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○
埼玉県済生会加須病院 （旧：埼玉県済生会栗橋病院）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○
茨城東病院	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△
済生会熊本病院	○	○	○	×	△	○	○	△	○	○	△	○	○
坪井病院	○						○						
東北大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
徳島大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
上尾中央総合病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	△	○	○
山梨大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
総合病院国保旭中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横浜労災病院	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
坂出市立病院	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	○

大分大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
山口宇部医療センター	○	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△
聖マリアンナ医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横浜市立大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国際医療福祉大学　成田病院	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
亀田総合病院	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	×
長野赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
浦河赤十字病院	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○

各研修施設における内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階に評価した.
(○:研修できる, △:時に経験できる, ×:ほとんど経験できない).
*外来症例を含めれば十分経験が可能.

専門研修施設群の構成要件(整備基準 25)

本研修施設群は，基幹施設である日本赤十字社医療センター，東京都第二次保健医療圏域・区西南部医療圏の連携施設，近隣医療圏および地方都市の医療圏の連携施設・特別連携施設から構成されています．日本赤十字社医療センターは区西南部医療圏の中心的な急性期病院であり，専攻医は地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます．また，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験することを目的に，連携施設・特別連携施設は，高次機能・専門病院である東京大学医学部附属病院， 東京大学医科学研究所附属病院，がん研究会有明病院， 杏林大学医学部付属病院 ， 国立がん研究センター中央病院・東病院 ， 東京医科大学病院 ，静岡県立静岡がんセンター，千葉大学医学部附属病院，地域基幹施設である三井記念病院，大森赤十字病院，東京逓信病院，JR 東京総合病院，東京品川病院 (旧 東芝病院)，公立学校共済組合 関東中央病院， 独立行政法人 地域医療機能推進機構 仙台病院， ,関東労災病院 ， 神奈川県立循環器呼吸器病センター ， 地域医療機能推進機構 東京新宿メディカルセンター 地域医療密着型病院である国家公務員共済連合会 三宿病院，北見赤十字病院， さいたま赤十字病院，船橋市立医療センター，飯塚病院，虎の門病院分院，相模原赤十字病院，横浜市立湊赤十字病院,茨城県立中央病院，沖永良部徳洲会病院，順天堂大学医学部附属順天堂医院，松山赤十字病院，秦野赤十字病院，相模原病院，鶴岡市立荘内病院，帝京ちば総合医療センター，JCHO 東京山手メディカルセンター， 同愛記念病院， 岩手医科大学附属病院,東北医科薬科大学病院，自治医科大学附属さいたま医療センター，東京ベイ・浦安市川医療センター，埼玉県済生会加須病院（旧：埼玉県済生会栗橋病院）,茨城東病院,済生会熊本病院,坪井病院,東北大学病院,徳島大学病院,上尾中央総合病院， 山梨大学医学部附属病院,総合病院国保旭中央病院,横浜労災病院,坂出市立病院,大分大学医学部附属病院， 山口宇部医療センター，聖マリアンナ医科大学病院， 横浜市立大学附属病院， 国際医療福祉大学 成田病院， 亀田総合病院， 長野赤十字病院， 浦河赤十字病院で構成されています.

専門研修施設(連携施設･特別連携施設)とコースの選択

専攻医の 3 年間のうち，合計 1 年間（連携枠は合計 2 年間）は連携施設・特別連携施設で研修をします。専攻医の希望・将来像，研修達成度，およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に，研修施設，研修時期，および研修期間を調整して決定します（専攻医ごとに異なります）．なお研修開始時の希望により，内科標準コースと Subspecialty 重点コース（平行研修）に分かれて研修をしますが，何れにしても，あくまで内科専門医研修を主とする研修です.

専門研修施設群の地理的範囲(整備基準 26)

東京都第二次保健医療圏域・区西南部医療圏と近隣医療圏にある施設，および地方都市にある施設から構成しています.

1)専門研修基幹施設
日本赤十字社医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. •研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •日本赤十字社常勤嘱託医師として労務環境が保障されています. •メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります. •ハラスメント委員会が当センター内に整備されています. •女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. •敷地内に託児所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	•指導医は 30 名在籍しています. •内科専門研修プログラム管理委員会によって，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. •基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と臨床研修推進室を設置しています. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2018 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •CPC を定期的に開催（年度間実績 8 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンス（渋谷区医師会日赤合同カンファレンス，循環器科渋谷区パス大会，循環器科渋谷区公開クルズス，東京循環器病研究会，城南呼吸器疾患研究会，城南気道疾患研究会，城南間質性肺炎研究会，渋谷目黒世田ヶ谷糖尿病カンファレンス，城南消化器検討会，東京肝癌局所治療研究会，都内肝臓臨床検討会，東京神奈川劇症肝炎研究会，消化器医療連携研究会，臨床に役立つ漢方勉強会，など）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2015～2018 年度開催実績各年 1 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修推進室が対応します.
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. •70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. •専門研修に必要な剖検（実績：2022 年度～2024 年度各々14,14,11 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	•臨床研究に必要な図書室などを整備しています. •倫理委員会を設置し，定期的に開催（年度間実績 11 回）しています. •治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（年度実績 11 回）しています. •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（年度間実績 4 演題）をしています.
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 日本赤十字社医療センターは日本赤十字社直属の総合病院であり，救急医療，がん治療， 周産期を三本柱とする東京中心部の急性期病院です． 救命救急センターにおける三次救急， 二次救急には研修医の先生に積極的に参加していただいております． 当院は癌拠点病院であり， 外科治療はもちろん， サイバーナイフ治療，化学治療，そして緩和病棟と一貫した体制がとられ，各科が協力して，とくに内科と外科は密接に関係しながら治療にあたっています． また， 当院は都内有数の周産期病院であり，年間 1000 件を超える出産があり，妊婦や婦人科

	に関連した疾患も内科において経験することが可能です．その他ほとんどすべての診療科を有し，多種多彩な疾患，症例を経験することが可能となっています．スタッフは各分野のエキスパートであり，指導体制も確立しています．症例報告，各種学会発表，臨床研究，論文作成も積極的に行われております．これまで，当院で研修された数多くの諸先輩医師が各分野における日本の医療を支える立場で活躍しています．当院出身の先輩医師は当院の出身であることに誇りを持ち，その経験を生かしつつ最前線で医療に携わっております。また、さらに経験を積んだうえで当院に戻られる先生方も多数おられます．新しい内科専門医制度の採用により，実際の症例件数や実技の修達度も明らかとなり，これまでより一層研修の質を向上させてくれることと思います．またさらには関連施設での一定期間の研修を組み入れることにより，一つの施設にとらわれない広い視野を持った医師の育成にも良い影響があると考えられます．当院のプログラムは，十分な症例経験，実技経験，地域医療や関連施設での研修を通し，これまで以上に日本の医療に貢献できる医師の育成に寄与すべく作成されております．少しでも多くの専攻医のみなさんが当院のプログラムに参加されることを期待しております． 内科専門研修プログラム統括責任者　小島　敏弥
指導医数 （常勤医）	日本内科学会専門研修指導医 19 名，日本内科学会総合内科専門医 36 名 日本消化器病学会消化器病専門医 16 名，日本肝臓学会肝臓専門医 6 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名，日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名， 日本腎臓学会腎臓専門医 5 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名， 日本血液学会血液専門医 10 名，日本神経学会神経内科専門医 2 名， 日本循環器学会循環器専門医 7 名，日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名， 日本救急医学会救急科専門医 12 名　など
外来・入院患者数	外来患者 11,335 名（内科 1 ヶ月平均）　入院患者 5,419 名（内科 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育施設・准教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設・準教育施設 日本救急医学会救急科専門医指導医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本感染症学会研修施設　など

2)専門研修連携施設

1. 国家公務員共済組合連合会 三宿病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要なインターネット環境が整備されています. ·国家公務員共済組合連合会に所属する施設として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（庶務課職員担当）があります. ·ハラスメント委員会が当院内に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に託児所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·内科指導医は 13 名在籍しています. ·基幹施設に設置されている内科専門研修プログラム管理委員会によって，連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会に協力しています. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を確保しています. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間を確保しています. ·隣接する自衛隊中央病院においてCPC を定期的に開催し（2024 年度間当院症例実績 7 回），専攻医に受講を義務付け，そのための時間を確保しています. ·地域参加型のカンファレンスとして，世田谷医師会医学会に参加することで，地域医療を学ぶ機会を供与しています.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ·20 疾患群以上の症例を経験し，J-OSLER に登録することが可能です. ·専門研修に必要な剖検（実績：2023 年度 8 体，2024 年度 6 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究や文献検索に必要なインターネット環境を整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催（年度間実績 11 回）しています. ·治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（年度実績 11 回）しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	増岡　和宏　医学教育部長 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は東京都目黒区にある中堅病院として，地域医療のあらゆるニーズに対応できるように 24 時間 365 日の救急車対応をしています．また HCU と SCU を有し，脳神経外科による脳卒中対応と循環器内科による CCU ネットワークによる 24 時間救急受付と整形外科の休日平日救急受付など，事故対応に即応した体制を有し，一般外科との連携も密にとっています．内科研修プログラムを有する基幹施設ではありませんが，虎の門病院，関東中央病院，自衛隊中央病院，東京大学附属病院，日本赤十字社医療センター，東邦大学医療センター大森病院等と連携を行っており，これら研修プログラム基幹病院の専門研修関連施設となっています．基幹病院の研修プログラムは元より，当院独自の特徴として総合内科に重点を置いた実践的教育を行ない，幅広い知識と技能を習得して地域の医療事情を理解し，実情に合った医療を実践する柔軟性の高い内科医を育成することを目標とします．基礎的な問診と理学的診察を身につけ，迅速かつ正確に初期診断を下す能力と診療開始時に得られる限られた情報をもとに適切なトリアージと初期治療によって診療をすすめる対応能力が必要とされます．経験豊かな指導医のもとで，前

	情報のない急性期・重症患者の診療に当たると同時に社会復帰までの支援をする回復期，安定した状態を維持する慢性期まで多職種からなる医療スタッフとも円滑にコミュニケーションをとり，一貫性のあるマネージメントを行なう能力も重要となります．内科医にとって，各専門領域の Subspecialty を獲得することは大切ですが，まずは初診患者に対する迅速な対応と患者背景を考慮した総合的な診療が行えるようになるための基本を修得することが必要です．当院の医療圏である目黒区・世田谷・渋谷区の人口は合わせて 140 万にも上りますが，同時に急激な少子・高齢化問題を背景に抱えています．中でも東京都区で最も人口の多い世田谷区は、65 歳以上の高齢者人口は既に高齢化率 20%を超え（2022 年 9 月時点），超高齢時代 を迎えています．当院は主に近隣のクリニック，周辺の老健施設，亜急性期型の病院と密に連携をとり個々の患者背景を理解し，その実情に合わせた実践的な医療を行えるよう，主担当医として各症例の診療に当たっていただきます．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会専門研修指導医 13 名，　日本内科学会総合内科専門医 21 名 日本消化器病学会消化器病専門医 10 名，　日本肝臓学会肝臓専門医 7 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名，　日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 3 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名，　日本血液学会血液専門医 2 名， 日本神経学会神経内科専門医 5 名，　日本循環器学会循環器専門医 3 名， 日本アレルギー学会専門医 1 名，　日本消化器内視鏡学会専門医 9 名
外来・入院患者数	2024 年度　内科系・外来患者数　総数 43,593 名（年） 内科系・入院患者数　総数 3,152 名（年）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することが可能．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験すること可能．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療も経験できます．当院は地域包括病棟を有しており，病診連携を通して退院調整や在宅や訪問診療を有する医療機関等とも連携しています．世田谷区医師会医学会への参加機会もあり，ここで連携の強化を図っております．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本リウマチ学会認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育関連施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本脳神経血管内治療学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本認知症学会教育施設

2. JR 東京総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・JR 東京総合病院非常勤医師として労務環境が保証されています。メンタルストレスに適切に対応する部署（事務部企画総務ユニット）があります。・ハラスメント委員会が事務部企画総務ユニットに整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 17 名在籍しています。・当施設において当施設において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員会は、現行設置されている臨床研修委員会の中に盛り込むこととします。 ・内科専門研修プログラム委員会（統括責任者・血液腫瘍内科杉本部長、プログラム管理者・消化器内科岡本部長）において、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保しています。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保しています。 ・地域参加型カンファレンス（ＪＲ東京総合病院・地域連携の会、渋谷区医師会・ＪＲ東京総合病院合同研修会、ＪＲ・JCHO 呼吸器カンファレンス、新宿肺感染症研究会、新宿呼吸器研究会、新宿呼吸器放射線科カンファレンス、7 病院循環器内科臨床研修連絡会合同研修医セミナー、渋谷区医師会循環器パス勉強会、城南消化器検討会、城西消化器病研究会、東京山手メディカルセンター・ＪＲ東京総合病院合同消化器症例検討会、ＪＲ東京総合病院消化器セミナーなど）を定期的に開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間を確保しています。 ・年 1 回当院において JMECC プログラムを開催し、当院に所属する全専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保しています。・日本専門医機構による施設実地調査に事務部企画総務ユニットが対応しています。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のほぼ全疾患群（少なくても 9 割以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2024 年度 12 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	杉本耕一 【内科専攻医へのメッセージ】 ＪＲ東京総合病院は、新宿区と接する渋谷区代々木において地域医療の中心的な急性期病院であるとともに、東京都区西南部地域の近隣医療圏との連携により幅広い内科専門研修を行っています。学問的な裏付けに基づいた診療を行えるとともに個々の患者さんの必要や環境に応じた適切な医療を提供できる内科専門医の育成を行っています。 主担当医として入院から退院までの診断・治療の流れを経時的に経験するとともに、外来および救急診療にも定期的に参加して、社会的背景・療養環境調整を

	も包括する全人的医療を実践できる内科専門医を育てます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会専門研修指導医 17 名，日本内科学会総合内科専門医 24 名 日本消化器病学会消化器病専門医 7 名，日本肝臓学会肝臓専門医 4 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名， 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名， 日本血液学会血液専門医 2 名，日本神経学会神経内科専門医 2 名， 日本循環器学会循環器専門医 9 名，日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名， 日本救急医学会救急科専門医 2 名　など
外来・入院患者数	外来患者 1,158 名（1 日平均）　入院患者 312 名（1 日平均）　2024 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 不整脈専門医研修施設制度認定施設 日本神経学会専門医制度准教育研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本臨床検査医学会認定研修病院 等

3. がん研究会有明病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（相談窓口）があります. ·ハラスメントに対応する委員会が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 18 名在籍しています. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（各複数回開催また研修開始時は必須）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち,5 の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています.
指導責任者	指導責任者：高野 利実 【内科専攻医へのメッセージ】 がん研究会有明病院は国内最大規模のがん専門病院であり、若手医師の教育・育成にも力を入れています。内科専門研修の連携施設として、呼吸器内科、消化器化学療法科、乳腺内科、総合腫瘍科、血液腫瘍科等が研修を担当します。ご希望があれば、複数の診療科をローテーションすることも可能です。豊富ながん症例の診療にあたりながら、がんの診断、治療、支持療法など、幅広い経験を積み、がん診療の技術や考え方を習得できるように指導します。専門医療だけでなく、内科専門医として、患者の幸せを目指し、全人的医療を実践できるような指導も心掛けています。腫瘍内科専門医を目指す方はもちろん、そうでない方も、最先端のがん医療に触れる貴重な機会ですので、是非当院での研修をご検討ください。お待ちしております！
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 13 名，日本内科学会総合内科専門医 29 名 ほか
外来・入院患者数	外来 435,886（年間）　入院 19,088（年間）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 5 領域，15 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本感染症学会認定研修施設

	日本消化器病学会認定施設 日本内科学会認定医制度教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設

4. 東京大学医科学研究所附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医、なんでも相談室）があります。 ・東京大学ハラスメント相談所が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科学会指導医が 16 名在籍しています（下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　4 回（各複数回開催)）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研究倫理研修会、臨床試験研修会を定期的に開催しています（2015 年度実績 1 回） ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、感染症、アレルギーおよび膠原病、血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 4 演題）を予定しています。
指導責任者	四柳　宏 【内科専攻医へのメッセージ】 東京大学医科学研究所附属病院は感染症、膠原病、血液疾患に関して専門的な診療を行っている病院です。医科学研究所の附属病院という性格をもち、新しい医療の開発を目指した臨床研究や先端医療の開発にも力を入れています。小規模病院の特徴を活かして各科の連携も緊密であり、患者様に質の高い医療を提供しています。アカデミックな雰囲気に触れながら、専門的な診療にじっくりと取り組んでみたい内科専攻医の方々を歓迎いたします。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　16 名、日本内科学会総合内科専門医　14 名 日本感染症学会血液専門医　5 名、日本リウマチ学会専門医　4 名、 日本血液学会専門医　10 名、日本消化器病学会消化器専門医　3 名、日本内分泌学会専門医　2 名、日本肝臓学会専門医　2 名
外来・入院患者数	外来患者　121 名（1 ヶ月平均）　入院患者　69 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域のうち、「血液」「感染症」「膠原病および類縁疾患」において十分な症例の経験ができ、それに付随する疾患に関しても経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	近隣のクリニックからの紹介症例や、総合病院との診療連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本血液学会認定研修施設

	日本リウマチ学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設

5. 東京品川病院（旧 東芝病院）

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤（嘱託）医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備され、産前産後休暇・育児休暇等を整備しています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医が 25 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・内科合同のカンファレンスを週 1 回 30 分開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・内科系各診療科のカンファレンスを定期的に開催しています。 ・総合内科主催の抄読会を適宜開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（地域連携症例報告会）を開催し、発表を含め参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・JMECC 受講：内科専攻医は必ず専門研修１年もしくは 2 年までに 1 回受講します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 題程度の学会発表を予定しています。
指導責任者	新海　正晴 【内科専攻医へのメッセージ】 東京品川病院内科専門研修は総合内科制です。内科専攻医は総合内科かつ各サブスペシャリティ診療科に所属します。実際の研修は、入院症例については、内科系各サブスペシャリティ領域の指導医と２人体制または初期研修医を加えた３人体制で担当します。サブスペシャリティ領域を細切れに研修するのではなく、内科の広い範囲を年間通して研修します。この継続性がかかりつけ医としての素養や病院での総合内科（Generality）の専門医としての素養を身につけることになります。 一方で、内科の各サブスペシャリティ領域の指導医がおり、指導医とともに症例を担当することで、各分野の最新のエビデンスに基づいた標準的な医療、安全な医療を研修でき、サブスペシャリティ領域の研修にもなり、総合内科的視点をもった Subspecialist としての素養を養います。 外来においては、総合内科としての外来診療および各サブスペシャリティ診療科の外来を研修します。具体的には、内科の新患・当日受付外来、日中の救急外来を当番制で担当します。また、内科の日当直を当番制で担当しますので、休日夜間の内科系２次救急医療の研修となります。各サブスペシャリティ診療科の外来、総合内科外来も週１回以上担当します。

	内科系のサブスペシャリティ領域の専門医を目指す方にも、総合診療を目指す方にも大変良い環境です。サブスペシャリティ領域をまだ決めていない場合でも研修を通じて決定して行くことができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会内科指導医 15 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名,指導医 2 名，日本感染症学会専門医 1 名， 日本消化器病学会消化器専門医 8 名,指導医 3 名， 日本肝臓学会専門医 2 名，日本循環器学会循環器専門医 7 名，日本脳卒中学会専門医 1 名，日本内分泌学会専門医 1 名,指導医 1 名，日本糖尿病学会専門医 1 名,指導医 1 名，日本腎臓病学会専門医 1 名,指導医 1 名，日本血液学会血液専門医 1 名,指導医 1 名，日本神経学会神経内科専門医 2 名
外来・入院患者数	年間外来延患者数 202,545（全科）、年間入院延患者数 143,757（全科）
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域のうち、70 疾患群について幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診・病病連携や連携も経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会専門研修プログラム基幹施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設 日本脳卒中学会　一次脳卒中センター認定施設（PSC）コア 日本脳神経外科学会　専門研修プログラム連携施設 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ

6. 三井記念病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります ・三井記念病院有期職員（常勤医師）として労働環境が保証されます ・メンタルストレスに適切に対処する部署（精神科産業医）があります ・ハラスメントを取り扱う委員会があります ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休息室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科学会指導医は 32 名在籍しています ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者;腎臓内科部長)、プログラム管理者（ともに総合内科専門医かつ指導医）が基幹施設と連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修部が設置されています ・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・地域参加型カンファレンスを定期的に開催し、専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修部が対応します
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています ・専門研修に必要な剖検を行っています
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室やインターネット環境を整備しています ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています ・日本内科学会講演会あるいは同地方回に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています
指導責任者	三瀬直文 【内科専攻医へのメッセージ】 過去に数多くの内科臨床医と臨床研究者を育成してきました。その成果として現在大学教官に多くの人材を輩出しています。中規模の病院ではありますが、海外を含めた学会活動や論文発表を推進することで最新の医療の実践を心がけています。グローバルに活躍できる人材育成を目指しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　32 名 日本内科学会総合内科専門医　34 名 日本消化器学会消化器病専門医　4 名 日本循環器学会循環器専門医　9 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医　3 名 日本肝臓学会肝臓専門医　2 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医　4 名 日本腎臓学会腎臓専門医　4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　1 名 日本血液学会血液専門医　5 名 日本神経学会神経内科専門医　3 名

	日本リウマチ学会リウマチ専門医　2 名 日本内分泌学会内分泌専門医　4 名
外来・入院患者数	外来患者　9,359 名（1 ヶ月延べ平均）　入院患者　5,995 名（1 ヶ月延べ平均）
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて、研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することが出来ます
経験できる技術・技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することが出来ます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診･病病連携なども経験出来ます
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会教育施設 日本呼吸器内視鏡学会認定導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本認知症学会専門医教育施設 日本超音波医学会専門医研修施設など

7. 大森赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 大森赤十字病院　常勤医師として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）がある。 ・ ハラスメント防止に対する規程及び委員会が整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 保育所の利用を必要とする場合は特段の配慮をする。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 14 名在籍している（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 0 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績　16 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 12 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 5 回）しています。 ・臨床研究部門を設置し、臨床研究発表会や講演会を開催しています。（2015 年度実績　各 1 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績　内科系学会 21 演題、日本内科学会 2 演題）をしています。
指導責任者	後藤　亨 【内科専攻医へのメッセージ】 大森赤十字病院は地域に密着した急性期病院で、近隣の施設と連携した内科専門研修を行います。いわゆる common disease はもちろん、重篤な疾患でも地域で治療を完結できるようにレベルの高い診療を目指しております。当院の特徴として他職種とのチーム医療を基本としており、医師はじめ多くのスタッフでチーム大森を形成しています。私たちは、専攻医の皆様が、「将来当院で研修を行ったことを自慢できるような病院」を目指して日々研鑽を積んでいます。是非、私たちのチームの一員になってともに学んでいきましょう。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　14 名、日本内科学会総合内科専門医　13 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本肝臓学会専門医 1 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 6 名、超音波医学会専門医 1 名、 日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本心血管インターベンション学会専門医 1 名、日本老年医学会認定専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、 日本血液学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 3 名、日本透析医学会専門医 3 名、日本高血圧学会高血圧専門医 1 名、日本神経学会専門医 6 名、日本頭痛学会専門医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名 ほか

外来・入院患者数	外来患者 16,922 名（1 ヶ月平均）　入院患者 9,553 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育病院 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本神経学会教育施設 日本老年医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本高血圧学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会関連施設 日本透析医学会教育関連施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設　など

8. 東京逓信病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·東京逓信病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ·ハラスメント担当者がいます。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医は 27 名在籍しています（下記）。 ·内科専門研修プログラム管理委員会（(統括責任者（診療科部長)），副統括責任者（診療科部長）にて、基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会（研究教育委員会）と臨床研修センター（管理課研修担当）を設置します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（動画視聴等 web で実施）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2024 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（四病院消化器研究会、東京チェストカンファレンス、臨床内分泌代謝研究会等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ·専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 11 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 4 回）しています。 ·治験事務局を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2024 年度実績 9 回）しています。 ·日本内科学会や同地方会及び内科系学会での発表数は 31 件（2023 年度実績）しています。
指導責任者	椎尾　康 【内科専攻医へのメッセージ】 　当院は都区中央部医療圏の中心的な急性期病院で、医療圏の紹介患者、救急患者、さらには都外など遠方からの紹介患者も積極的に受け入れています。近隣の大学病院や基幹病院と連携しており、人材の交流も盛んです。将来的なサブスペシャリティだけでなく内科的疾患全般に対処できる臨床能力を身につけることを重視したプログラムとなっており、また主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。症例発表等の学会活動にも力を入れていますので、リサーチマインドをもって情報発信することを心がけましょう。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 27 名、日本内科学会総合内科専門医 25 名、 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本肝臓学会肝臓専門医 4 名、 日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本内分泌学会内分泌専門医 3 名、 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 3 名

	日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名、 日本感染症学会感染症専門医 2 名
外来・入院患者数	入院患者数５，４８４人（1 か月平均）外来患者数８，３３０人（1 か月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内分泌学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本動脈硬化学会専門医制度教育病院 日本臨床神経生理学会教育施設（脳波・筋電図） 日本肝臓学会認定施設 日本消化器病学会専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 日本血液学会専門研修教育施設

9. 公立学校共済組合 関東中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境が整備されています。 ·関東中央病院シニアレジデントとして労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルスセンター）があります。 ·ハラスメント委員会が整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があります。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 13 名在籍しています。 ·内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全講習会を（2025 年 15 回）、感染対策講習会を（2025 年 2 回）開催しています。専攻医には受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス(城南地区合同カンファレンスなど)を定期的に開催しています。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野で専門研修が可能な症例を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 6 件）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 2 演題）をしています。
指導責任者	指導責任者：中込　良 【内科専攻医へのメッセージ】 関東中央病院は、全国に 8 施設ある公立学校共済組合設置の病院の一つで、東京都内の大学病院、関連病院と連携し、人材の育成や地域医療に貢献してまいりました。本研修プログラムは、全人的、臓器横断的な内科医療の実践に必要な知識と技能の習得のみならず、高い倫理観と社会性を備えた内科専門医の育成を目指します。また同時にリサーチマインドを育み、医学の進歩に貢献し、将来の日本の医療を担う医師の養成も目的とします。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会認定内科指導医 13 名，日本内科学会総合内科専門医 11 名 日本消化器病学会消化器専門医 2 名，日本循環器学会循環器専門医 6 名， 日本内分泌学会専門医 1 名，日本糖尿病学会専門医 1 名， 日本腎臓病学会専門医 2 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名， 日本神経学会神経内科専門医 3 名，日本アレルギー学会専門医（内科）2 名，日本肝臓学会肝臓専門医 1 名，日本救急医学会救急科専門医 0 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 6,201 名（内科 1 ヶ月平均）入院患者 3,786 名（内科 1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて希な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 血液、膠原病分野の入院症例はやや少ないものの、外来症例を含め十分な症例の経験が可能です。
経験できる技術・	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づ

技能	きながら幅広く経験することが可能です。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、高齢者化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携が経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本呼吸器学会認定医制度認定施設（内科系） 日本呼吸器内視鏡学会関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本糖尿病学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本神経学会認定医制度教育施設 日本消化器内視鏡学会認定医制度修練施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定指定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修基幹施設 日本心血管インターベンション学会認定研修関連施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会認定ＮＳＴ稼働施設 日本栄養療法推進協議会認定ＮＳＴ稼働施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 など

10. 北見赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·日本赤十字社正職員医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課・医療福祉課）があります. ·ハラスメント委員会が北見赤十字病院に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，24 時間利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医は 9 名在籍しています. ·内科専門研修プログラム管理委員会（プログラム統括責任者（院長補佐監）、プログラム管理者（第一内科・総合診療科部長）（ともに総合内科専門医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム委員会を設置します. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 22 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2018 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2015 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（内科系３診療科オープンカンファレンス，北見心電図・ＡＢＩカンファレンス、北見臨床研究会等；2015 年度実績 21 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2017 年度当院開催予定）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に対応します.
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます. ·専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 3 体，2015 年度 9 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年実績 6 演題）をしています.
指導責任者	第一内科・総合診療科部長　永嶋貴博 【内科専攻医へのメッセージ】 　当院は，北海道三次医療圏であるオホーツク圏の地方センター病院です。急性期病院であり、かつ、がん診療連携拠点病院です。当院自体も基幹施設として専門医研修プログラムを整備しています。社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医の育成を目指しています。医療資源の乏しい地域基幹病院として、真の初診（患者が初めて医療機関に受診する「初診」及び診断・治療がなされていない診療連携のファーストステップとしての紹介「初診」）から入院・退院まで関わることができるので、疾患の初期診断から治療開始・治療転帰まで一貫した診療を経験できます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 9 名，日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本消化器内視鏡学会専門医 3 名，日本血液学会血液専門医 2 名， 日本肝臓学会専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 1 名， 日本高血圧学会高血圧指導医 1 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名、日

	本ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮ治療学会専門医 2 名，日本核医学専門医 1 名
非常勤医師	日本糖尿病学会指導医・日本内分泌学会指導医 1 名（毎週）、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名・日本神経学会専門医 1 名（月 2 回）
外来・入院患者数	外来患者 2,331 名（1 ヶ月平均）　入院患者 1,003 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，66 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、がん診療においては早期診断・治療から緩和・終末期医療、在宅医療の連携まで経験できます。超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携が経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設

11. 相模原赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	·初期臨床研修における地域医療研修施設です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·相模原赤十字病院常勤嘱託医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当および産業医、産業カウンセラー）があります. ·日本赤十字社ハラスメント防止規程に基づき、適切な取り組みがなされています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室，シャワー室，当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・研修委員会を立ち上げ、専攻医の研修を管理し、基幹施設で設置されるプログラム管理委員会と連携を図っていきます。 ・医療安全（24 回/年）・感染症対策（3 回/年）講習会を定期的に開催しており、すべての医師に出席を義務付けています。専攻医も当然出席を義務付けます。 ・日本医師会「医師の職業倫理指針」や、倫理関連サイトの紹介を行うことで、倫理意識の啓蒙に努めます。 ・研修施設群合同カンファランスに参加する時間的余裕を与えます。 ・基幹病院で行われる CPC に参加できるための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催（医師会主催の地域医療研究会年 12 回、その他カンファレンス 20 回以上）しており、専攻医に受講を義務付けています。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、神経、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野では高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 ・専攻医が国内の学会で発表できる機会があります。
指導責任者	院長　　西山　保比古 【内科専攻医へのメッセージ】 相模原赤十字病院は相模原市北西部地域にある急性期病院です。日本赤十字医療センターを基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として特に地域医療・病院での総合内科専門医の観点を中心とした内科専門医研修を行い、高い倫理観を持ち最新の標準的医療を実践し、安全な医療を心がけプロフェッショナルに基づく患者中心の医療を展開できる内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	16 名(内科 6 名、小児科 1 名、外科 3 名、整形外科 3 名、地域医療 3 名)
外来・入院患者数	外来患者 2,809 名（内科 1 ヵ月平均)、入院患者 1,799 人（内科 1 ヵ月平均)
経験できる疾患群	極めてまれな疾患を除いて、研修手帳にある 13 領域、70 疾患の群の症例を幅広く研修することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢化者化に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本呼吸器学会関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設

12. 独立行政法人 地域医療機能推進機構 仙台病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·ハラスメント,メンタルストレスに対応する職員が配置されています. ·女性専攻医が安心して勤務出来るように，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ·病院内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 13 名在籍しています. ·医療安全・感染対策研修会を毎年 10 回以上定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·倫理委員会を設置し，必要時に開催しています. ·CPC を定期的に開催（2023 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催しており,専攻医に参加のための時間的余裕を与えます. ・将来的に自院での JMECC 開催を目指していますが,開催できない期間は他院での JMECC 受講の機会を専攻医に与え,そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域　13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，血液，膠原病，アレルギー，感染症及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・倫理委員会が設置されており,定期的に開催されています. ・臨床研究部が存在し,臨床研究を実施できる体制にあります. 日本内科学会講演会あるいは，同地方会に年間で計３演題以上の学会発表を予定しています.（2023 年度実績　7 題）
指導責任者	渡邉　崇（内科研修委員会委員長） 【内科専攻医へのメッセージ】 JCHO 仙台病院は，日本最大規模の腎センターを有しており，腎疾患および関連する免疫関連疾患，日和見感染症については極めて稀な症例を含め経験が可能です．それ以外の内科系診療科についても専門研修に十分な症例を担当しています．　2021 年 5 月に仙台市泉区紫山へと新築移転いたしました.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　13 名 日本内科学会総合内科専門医　9 名 日本腎臓学会認定腎臓専門医　4 名 日本循環器学会循環器専門医　2 名 日本消化器病学会消化器専門医　2 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者　112.2 名（内科のみ、1 日平均）　入院患者　9,912 名（年延数）
経験できる疾患群	総合内科・消化器・循環器・内分泌・代謝・腎臓・膠原病の分野を中心に，70 疾患群のうち 66 疾患群について幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することが出来ます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，地域に根差した医療，病診・病院連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院（日本内科学会） 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設（日本循環器学会） 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設（日本心血管インターベンション治療学会） 日本消化器病学会認定施設（日本消化器病学会） 日本消化器内視鏡学会指導施設（日本消化器内視鏡学会） 日本胆道学会認定指導医制度指導施設（日本胆道学会） 日本腎臓学会研修施設（日本腎臓学会）

	日本透析医学会専門医認定施設（日本透析医学会） 日本病院総合診療医学会認定施設　など

13. 東京大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·臨床研修制度基幹型臨床研修病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·東京大学医学部附属病院として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレス・ハラスメントに適切に対処する部署があります。 ·敷地内にキャンパス内保育施設があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·研修委員会を設置して、施設内の専攻医の専門研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ·CPC を定期的に開催します。
認定基準 【整備基 24/31】 3)診療経験の環境	内科全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·内科系学会で年間 200 件以上発表しており、そのうち臨床研修医と内科専門研修中の専攻医の医師が筆頭演者の発表は 50 件以上あります。
指導責任者	藤尾 圭志（統括責任者・内科部門長）
指導医数 （常勤医）	171(非常勤含む)
外来・入院患者数	外来患者数　　636,701 人　　入院患者数　323,467 人　（2024 年度実績）
経験できる疾患群	2024 年度以降に専門研修を開始した新基準適用の専攻医は、3 年で研修を修了予定の場合、「研修手帳（疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，120 症例以上を確実に経験できる研修とするとともに、指導医による形成的な指導を通じて，29 症例の病歴要約を作成します。 旧基準適用の専攻医は、3 年での内科専門研修修了時に、通算で 56 疾患群，160 症例以上を確実に経験できる研修とし、29 症例の病歴要約を作成します。2024 年度以降に研修を開始した内科専攻医でも、移行措置として、研修開始時に申し出ることにより、2023 年度以前の旧基準での研修も可能な場合があります。
経験できる技術・技能	（3 年間の場合） 〇専攻医 1 年目 ・疾患の診断と治療に必要な医療面接，身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします。 〇専攻医 2 年目 ・疾患の診断と治療に必要な医療面接，身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします。 〇専攻医 3 年目 疾患の診断と治療に必要な医療面接，身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができるようにします。 〇専門研修期間を通じて，初診を含む外来（通算で，1 回／週を 6 ヶ月以上） と当直を経験します。 〇臨床現場を離れた学習として，内科領域の救急，最新の病態・治療法について専攻医対象のセミナーが開催されており，それに参加し学習します。JMECC の履修は必須です。内科系学術集会への参加，発表も推奨されます。また，内科系学会が行っているセミナーのオンデマンドの配信等を用いて自己学習します。個人の経験に応じて適宜視聴ができるよう設備を準備します。また，日本内科学会のセルフトレーニング問題を解き，内科全領域の知識のアップデートの確認手段とします。定期的に指導医と専攻医が面談を行い，自己学習結果を指導医が評価しフィードバックを行います。
経験できる地域医	連携施設である地域の中核となる総合病院での研修を通じ、内科専門医に求めら

療・診療連携	れる役割を実践することが可能です。 また、連携先の医療レベル維持にも貢献できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育施設、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会血液研修施設、日本神経学会教育施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本老年医学会認定教育施設、日本感染症学会研修施設、日本心身医学会認定研修診療施設

14. 杏林大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·杏林大学病院専攻医として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ·ハラスメント委員会が大学に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	·指導医が 74 名在籍しています（2019 年 2 月）. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に複数回開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンス（2019 年度開催予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2017 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・JMECC 受講（杏林大学医学部付属病院で開催実績：2019 年度 2 月に開催予定）プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科を除く，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，高齢医学，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ·専門研修に必要な剖検（2016 年度実績 42 体，2017 年度 45 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	・国内では，地方会や総会で，積極的に学会発表をしています. また海外の学会でも、学会発表を行います.
指導責任者	第三内科学(消化器内科)教授　久松　理一 【内科専攻医へのメッセージ】 昭和 45 年 8 月に設置した杏林大学医学部付属病院は,東京西部・三多摩地区の大学病院として高度な医療のセンター的役割を果たしており,平成 6 年 4 月に厚生省から特定機能病院として承認されています. 高度救命救急センター（ 3 次救急医療)、総合周産期母子医療センター、がんセンター、脳卒中センター、透析センター、もの忘れセンター等に加え、救急初期診療チームが 1 ・2 次救急に２４時間対応チームとして活動しています.東京都三鷹市に位置する基幹施設として，東京都西部医療圏（多摩，武蔵野）・近隣医療圏にある連携施設と協力し内科専門研修を経て東京都西部医療圏の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練します. さらに内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はより高度な総合内科の Generality を獲得する場合や内科領域 Subspecialty 専門医への道を歩む場合を想定して，複数のコース別に研修をおこなって内科専門医の育成を行います.

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 74 名，日本内科学会総合内科専門医 42 名(内科学会総合専門医は、すべて内科指導医も取得) 日本消化器病学会消化器専門医 10 名，日本循環器学会循環器専門医 17 名， 日本内分泌学会専門医 6 名，日本糖尿病学会専門医 6 名， 日本腎臓病学会専門医 8 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名， 日本血液学会血液専門医 2 名，日本神経学会神経内科専門医 13 名， 日本アレルギー学会専門医 1 名，日本リウマチ学会専門医 6 名， 日本老年病専門医 4 名，ほか
外来・入院患者数	内科外来延べ患者　205,319 名（1 年間）　内科入院患者実数 8,644 名（1 年間）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症経験することができます.
経験できる技術・技能	本プログラムは,専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）に，豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します.
経験できる地域医療・診療連携	連携病院が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，原則として 1 年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本神経学会教育認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設　など

15. 関東労災病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・ 関東労災病院嘱託医師として労務環境が保障されています（衛生管理者による院内巡視・月 1 回）. ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課・安全衛生委員会）があります. ・ ハラスメント委員会が院内に整備されています. ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・ 敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 17 名在籍しています. ・ 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者　副院長）にて,基幹施設，連携施設に設置されている内科専門研修委員会との連携を図りながら専攻医の研修状況等を管理します. ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と卒後臨床研修管理室を設置します. ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2017 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ CPC を定期的に開催（2017 年度実績 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 地域参加型のカンファレンス（中原区 COPD 連携の会）（2017 年度実績 1 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2017 年度開催実績 0 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 日本専門医機構による施設実地調査に卒後臨床研修管理室が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ・ 専門研修に必要な剖検（2016 年実績 12 体，2017 年度 17 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ・ 倫理委員会を設置し，定期的に開催（2017 年度実績 12 回）しています. ・ 治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2017 年度実績 12 回）しています. ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2017 年度実績 9 演題）をしています.
指導責任者	並木　淳郎（副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 関東労災病院は，川崎市南部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核である．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　23 名,　日本内科学会総合内科専門医　14 名, 日本消化器病学会消化器専門医　12 名,　日本肝臓病学会専門医　8 名, 日本循環器学会循環器専門医　4 名,　日本糖尿病学会専門医　2 名 日本内分泌学会専門医　2 名,　日本腎臓病学会専門医　3 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医　6 名,　日本血液学会血液専門医　2 名, 日本神経学会神経内科専門医　2 名
外来・入院　患者数	外来患者　1,719 名（1 日平均）　入院患者　490 名（1 日平均）　※2017 年度実績

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育病院, 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設, 日本血液学会血液研修施設, 日本呼吸器学会認定施設, 日本循環器学会循環器専門医研修施設, 日本消化器病学会認定施設, 日本神経学会准教育施設, 日本腎臓学会研修施設, 日本糖尿病学会認定教育施設, 日本がん治療医認定機構認定研修施設, 日本救急医学会救急科専門医指定施設, 日本呼吸器内視鏡学会認定施設, 日本消化管学会胃腸科指導施設, 日本消化器内視鏡学会指導施設, 日本心血管インターベンション治療学会研修施設, 日本精神神経学会研修施設, 日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム（NST）専門療法士認定教育施設, 日本透析医学会認定施設, 日本不整脈学会・日本心電学会不整脈専門医研修施設 ステントグラフト実施施設 日本感染症学会連携研修施設

16.国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·国立研究開発法人非常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課労務係）があります。 ·各種ハラスメント委員会が国立研究開発法人に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·内科学会指導医は 29 名在籍しています。（2025 年 3 月現在） ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績　医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2023 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（2023 年度　多地点合同メディカル・カンファレンス 16 回）を定期的に開催し、受講のための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域 13　分野のうち、消化器、呼吸器、血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ·専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 10 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·内科系学会で多数の発表を行っています。（2023 年度実績 147 件） ·専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	堀之内　秀仁 【内科専攻医へのメッセージ】 日本屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーに加え、在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携についても経験できます。また、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く研修を行うことができます。国立がん研究センター中央病院での研修を活かし、今後さらに重要性が増すがん診療含め、幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　29 名、日本内科学会総合内科専門医　36 名（2025 年 3 月現在）
外来・入院患者数	新入院患者数（延数）19,566 名、総外来患者(延数）376,470 名（2023 年度）
経験できる疾患群	1.研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、全ての固形癌、血液腫瘍の内科治療を経験でき、付随するオンコロジーエマージェンシー、緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。 2.研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1.日本屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーなど、幅広いがん診療を経験できます。 2.技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会 日本緩和医療学会

	日本血液学会 日本呼吸器学会 日本呼吸器内視鏡学会 日本産科婦人科学会 日本小児血液・がん学会 日本消化管学会 日本消化器内視鏡学会 日本カプセル内視鏡学会 日本消化器病学会 日本総合病院精神医学会 日本胆道学会 日本超音波医学会 日本乳癌学会 日本臨床腫瘍学会　など

17.国立研究開発法人国立がん研究センター東病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･施設内に研修に必要なインターネット環境が整備されている。 ･適切な労務環境が保障されている。 ･メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設と連携できる。 ･ハラスメント委員会が整備されている。 ･女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されている。 ･敷地内外を問わず保育施設等が利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 1 名以上在籍している（下記） ･研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ることができる。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 （2024 年度実績：医療倫理 5 回、医療安全 2 回、感染対策講習会 2 回） ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ･CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科Ⅲ（腫瘍）、消化器、循環器、呼吸器、血液、感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診察している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしている。
指導責任者	内藤 陽一 【内科専攻医へのメッセージ】 国立がん研究センター東病院は、世界最高のがん医療の提供、世界レベルの新しいがん医療の創出を行う最高峰の施設です。がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療　中核拠点病院、特定機能病院等にも指定され、豊富な症例経験、様々な領域を専門とする指導医によるがん診療を含め、高度な技能の習得が可能です。様々な臓器にまたがる疾患を経験することにより、内科専門医としての幅広い知識や技能を習得することと共に、コミュニケーションスキル・トレーニングや、チーム医療、地域医療との連 携により、全人的な医療従事者として活躍できるための支援・指導を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 20 名、日本内科学会総合内科専門医 22 名、内科専門医 23 名、認定内科医 25 名 日本臨床腫瘍学会指導医 16 名、がん薬物療法専門医 13 名 日本肝臓学会指導医 1 名、肝臓専門医 7 名 日本血液学会指導医 5 名、血液専門医 5 名 日本呼吸器学会指導医 3 名、呼吸器専門医 7 名 日本消化器病学会指導医 8 名、消化器病専門医 25 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 28,472 名（1 ヶ月平均）入院患者 11,988 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患軍港目標）にある、総合内科Ⅲ（腫瘍）、消化器、呼吸器、血液の分野で主要疾患を中心に経験することができます。
経験できる技術・技能	該当する疾患に対して、技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設

	日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設　　など

18.神奈川県立循環器呼吸器病センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神奈川県立病院機構任期付常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務局総務課）があります。 ・内部統制・コンプライアンス室が地方独立行政法人神奈川県立病院機構本部事務局に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2） 専門研修プログラムの環境	・指導医が 13 名在籍しています（下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスは、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、実施を見送っておりましたが、２０２４年から再開しております。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、循環器、呼吸器、感染症、アレルギーおよび代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・症例報告を論文にまとめることを始めとして、臨床データの収集解析を行い、在籍中に原著論文を仕上げられるよう指導します。(1 年～4 年次) ・総会発表を年 1 回以上行うことを指導します。(3～4 年次) ・研究会、学会活動、論文作成には可能な限り経済的・時間的援助を行います。
指導責任者	萩原　恵里 【内科専攻医へのメッセージ】 循環器呼吸器病センターは循環器および呼吸器疾患の専門病院であり、連携施設として循環器、呼吸器疾患の診断と治療の基礎から、より専門的医療を研修できます。循環器に関しては急性期の虚血性疾患の対応から、慢性期の心不全の管理まで対応できます。呼吸器疾患に関しては、結核を含む感染症、肺癌など腫瘍性疾患、間質性肺疾患、気管支喘息などのアレルギー性疾患など幅広い疾患に関して全国有数の症例数を有しており、それぞれの疾患の専門家が指導できます。また専門医療のみではなく、主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　13 名、日本内科学会総合内科専門医　15 名 日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本呼吸器学会専門医 13 名 日本糖尿病学会専門医　1 名、日本アレルギー学会専門医（内科）1 名 日本感染症学会専門医 2 名ほか
外来・入院患者数	外来患者　6,642 名（1 ヶ月平均）　入院患者　4,166 名（1 ヶ月平均）　＊2024 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて、研修手帳（疾患群項目表）にある 9 領域、39 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に循環器および呼吸器領域においては、より高度な専門技術も習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病院連携などを経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会連携施設 日本呼吸器学会基幹施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

	日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本アレルギー学会専門医教育研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

19.東京医科大学病院

専攻医の環境	·基幹型臨床研修病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·労務環境が保障されています。 ·臨床心理士によるカウンセリングを随時実施しています。 ·ハラスメントに関する委員会が整備されています。 ·休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に保育施設があります。
専門研修プログラムの環境	·指導医 81 名が在籍しています。 ·研修委員会を設置し、基幹施設との連携により専攻医の研修支援体制を構築しています。 ·「医療安全」「感染対策」「個人情報保護」「コンプライアンス」に関する講習会を定期的に開催しています。 ·CPC を定期的に開催しています。 ·JMECC 院内開催を実施しています。
診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、ほぼすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
学術活動の環境	·臨床研究が可能な環境が整っています。 ·臨床研究支援センター、治験管理室が設置されています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者、専攻医へのメッセージ	専門研修プログラム統括責任者　岩田　英里 【内科専門医へメッセージ】 新宿区西新宿駅に位置する特定機能病院で、内科系診療科（総合診療科、血液内科、呼吸器内科、循環器内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、リウマチ・膠原病内科、神経内科、消化器内科、腎臓内科、高齢診療科、臨床検査医学科、感染症科）および救急領域での研修が可能です。 症例数が豊富で、幅広い症例を経験できます。最新治療や設備のもと、内科専門医として必要な技術を習得できる環境を提供します。他科との風通しも良く、他職種とのチームワークの良さも特長のひとつです。
指導医数	消化器病学会 41 名、循環器学会 27 名、内分泌学会 11 名、腎臓学会 10 名 呼吸器学会 10 名、血液学会 18 名、神経学会 20 名、アレルギー学会 1 名 リウマチ学会 8 名、感染症学会 14 名、、糖尿病学会 22 名、老年医学会 13 名 肝臓学会 11 名、消化器内視鏡学会 40 名、臨床腫瘍学会 1 名名
外来・入院患者数	外来患者数（延患者数）58,052 人/月平均 入院患者数（延患者数）23,977 人/月平均
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます
学会認定（内科系主なもの）	一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会　家庭医療後期研修プログラム認定施設 一般社団法人日本東洋医学会　研修施設 日本血液学会　専門研修認定施設 公益財団法人日本骨髄バンク　非血縁者間骨髄採取認定施設 一般社団法人日本造血・免疫細胞療法学会　非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科 社団法人日本呼吸器学会　認定施設 日本循環器学会　循環器専門医研修施設 日本高血圧学会　研修施設 日本睡眠学会　専門医療機関 日本不整脈心電学会　不整脈専門医研修施設

	日本動脈硬化学会　教育病院 日本心血管インターベンション治療学会　潜因性脳梗塞に対する卵円孔開存閉鎖術実施施設 日本循環器学会　経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設 日本心エコー図学会　″認定心エコー図専門医制度研修施設″ 日本不整脈心電学会　パルスフィールドアブレーション実施施設 経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会　カテーテル的大動脈弁置換術（TAVR）専門施設認定 日本心血管インターベンション治療学会　動脈管開存症に対する経皮的動脈管開存閉鎖術実施施設 日本心血管インターベンション治療学会　心房中隔欠損症に対する経皮的心房中隔欠損閉鎖術実施施設 日本糖尿病学会　教育施設 日本内分泌学会　教育施設 日本肥満学会　肥満症専門病院 日本肝臓学会　認定施設 社団法人日本超音波医学会　超音波専門医研修施設 日本消化器病学会　認定施設 日本膵臓学会　指導施設 日本炎症性腸疾患学会　指導施設 日本腎臓学会　教育施設 日本透析医学会　認定施設 日本病態栄養学会　病態栄養専門医研修認定施設 日本アフェレシス学会　施設認定 日本認知症学会　教育施設 日本臨床検査医学会　認定病院 日本輸血・細胞治療学会　日本輸血・細胞治療学会指定施設 日本輸血・細胞治療学会(技師)　指定施設認定 社団法人日本感染症学会　研修施設認定証 日本消化器内視鏡学会　指導施設 日本消化管学会　胃腸科指導施設 日本カプセル内視鏡学会　指導施設

20. 独立行政法人 地域医療機能推進機構　東京新宿メディカルセンター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·当院シニアレジデントとして労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ·ハラスメントに対しては相談担当者を選任し、相談・苦情を受け付けています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，女性専用の当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所はないが，専攻医の要望に応じて，終業時間の調整など専攻医が仕事と育児の両立をできるよう病院としてサポートします.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が１８名在籍しています（下記）. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2017 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 6 回，感染対策 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2017 年度実績 9 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス：医療連携講演会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2017 年度実績　3 演題）をしています.
指導責任者	堀江　美正 【内科専攻医へのメッセージ】 　都心のビジネス街に在って、旧くて新しい街、神楽坂近くの総合病院です。急性期病院でありながら回復期リハ・地域包括ケア・緩和ケア病棟を有し、都内屈指の在宅医療体制との連携を含め、時代のニーズに応えるべく幅広い診療を提供しています。内科は各専門分野に指導医・スタッフを揃える一方、総合内科診療チーム（通称‘チーム G’）が複数科の指導医のもと活躍しており、オールラウンドな内科専門医を目指す先生方にとって最適の研修環境となることでしょう。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 18 名，日本内科学会総合内科専門医 24 名，日本消化器病学会消化器専門医 5 名，日本循環器学会循環器専門医 5 名，日本内分泌学会専門医 2 名，日本糖尿病学会専門医 2 名，日本腎臓病学会専門医 1 名，日本神経学会専門医 3 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，日本血液学会血液専門医 3 名，日本緩和医療学会専門医 1 名，日本救急医学会救急科専門医 1 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 258,217 名（2017 年度）　入院患者 8,635 名（2017 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技　能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．都市部ならではの「地域密着型の研修」を行ないます.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本神経学会准教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本プライマリケア連合学会認定施設 東京都災害拠点病院　など

21.さいたま赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・さいたま赤十字病院常勤嘱託医して労務環境が保障されています。 ・安全衛生委員会にてメンタルストレス、ハラスメントに適切に対しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 41 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて専攻医の研修を管理します。 ・医療倫理、医療安全、感染症対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に参加を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型カンファランス（胸部画像カンファランス、循環器疾患症例検討会、さいたま市神経カンファランス、さいたま血液勉強会、さいたま市リウマチ合同カンファランス、さいたま赤十字病院リウマチカンファランス、与野医師会糖尿病勉強会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・全専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査にはさいたま赤十字病院　教育研修課が対応します。 ・指導医の在籍していない施設の指導体制・・・テレビ電話等
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2016 年度実績 16 体、2017 年度実績 15 体、2018 年度実績 12 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要なコンピューターソフト等を図書室に準備しています。 ・臨床倫理委員会（2018 年度実績 6 回）を設置し定期的に開催しています。 ・治験事務局を設置し定期的に治験審査委員会（2018 年度実績 11 回）を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは地方会に年 3 演題以上を発表しています。
指導責任者	甲嶋　洋平 【内科専攻医へのメッセージ】 さいたま赤十字病院は埼玉県さいたま市地区医療圏にある中心的な急性期病院です。背景人口が大きいため症例は豊富であり、あらゆる種類の急・慢性疾患、あらゆる背景を有する患者さんを経験することが可能です。初期臨床研修での経験をさらに深め、主治医として主体的に医療に参加しながら医師としての資質をさらに深めていただきたく思います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 41 名、日本内科学会総合内科専門医 22 名、日本消化器病学会専門医 7 名、日本循環器病学会循環器専門医 9 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会専門医 7 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本リウマチ学会専門医 2 名
外来・入院患者数	（平成 30 年度延患者数） 外来患者　　112,886 名　　入院患者　89,571 名
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携を経験できます。特に近接医療圏、他県医療圏の連携施設にて郊外、過疎地域での地域医療を経験できることも本プログラムの特徴です。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会基幹研修施設 日本循環器病学会専門医研修施設 日本呼吸器病会認定施設 日本血液学会研修施設 日本腎臓学会基幹研修施設 日本神経学会教育施設 日本リウマチ学会研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本大腸肛門病学会基幹研修施設 日本透析医学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本肝臓学会認定施設 日本胆道学会指導施設 日本膵臓学会認定指導施設　など

22.千葉大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要なインターネット環境があり、病院内で UpToDate などの医療情報サービスの他、多数の e ジャーナルを閲覧できます. 敷地内に図書館があります。 ・労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ・ハラスメント委員会が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に保育所があり、病児保育も行っています。院内に学童保育園があります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 81 名在籍しています.（2025 年 4 月現在） ・内科専門研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC およびキャンサーボードを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全ての疾患群について研修できます. ・専門研修に必要な剖検（2024 年度 9 体、2023 年度 11 体，2022 年度 6 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な設備として、敷地内に図書館がある他、各診療科にも主要図書・雑誌が配架されています。多数の e ジャーナルの閲覧ができます。 ・臨床研究に関する倫理的な審査は倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. 倫理委員会のメンバーは内部職員および外部職員より構成されています。 ・専攻医は日本内科学会講演会あるいは同地方会の発表の他，内科関連サブスペシャリティ学会の総会，地方会の学会参加・発表を行います. また，症例報告，論文の執筆も可能です.
指導責任者	小林　欣夫 【内科専攻医へのメッセージ】 千葉大学病院には，臨床医学の各分野において卓越した専門医を育成してきた伝統があります。本院では、内科系各専門分野にわたる豊富な症例と充実した指導医のもと，基本的診療と先進医療双方の実践を通じて，専門研修で修得すべき能力を身に付けることができます。本院の研修ではエビデンスに基づいた医療と基本的な診療能力の修得を重視しています。さらに，常に患者さんの立場に立って診療を行うことができる Humanity も重要です。自分自身を絶えず見つめなおし，患者さん，看護師，仲間，先輩など，いろいろな人達から学び・教えあうことで，ともに成長していくことが本院の研修目標です。我々は専攻医が診療を通して自己を磨き，成長していくことをサポートします。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 81 名，日本内科学会総合内科専門医 101 名、日本消化器病学会消化器専門医 40 名，日本肝臓学会肝臓専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 20 名，日本内分泌学会専門医 15 名，日本腎臓病学会専門医 12 名，日本糖尿病学会専門医 21 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 34 名，日本血液学会血液専門医 13 名，日本神経学会神経内科専門医 20 名，日本アレルギー学会専門医（内科）7 名，日本リウマチ学会専門医 21 名，日本感染症学会専門医 4 名，日本老年医学会専門医 3 名、消化器内視鏡学会専門医 25 名、臨床腫瘍学会専門医 3 名、ほか（2024 年度）
外来・入院患者数	内科外来患者 171,310 名/年　　内科入院患者 6,561 名/年（2024 年度）

経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本老年医学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 ステントグラフト実施施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本神経学会専門医研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本認知症学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設　など

23.船橋市立医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·船橋市立医療センター常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ·ハラスメント委員会が船橋市立医療センターに整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·病院近傍に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 23 名在籍しています. ·内科専門研修プログラム管理委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.（2018 年度実績 6 回） ·研修施設群合同カンファレンス（2020 年度：年 2 回開催予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2018 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（船橋市内科医会，消化器病症例検討会、循環器内科症例検討会など；2018 年度実績 20 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，血液を除く，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，神経，アレルギー，膠原病，感染症，および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	国内では，地方会や総会で，積極的に学会発表をしています. また海外の学会でも、学会発表を行います.
指導責任者	代謝内科　部長　岩岡　秀明 【内科専攻医へのメッセージ】 船橋市立医療センターは、政令指定都市以外で最も人口の多い都市である船橋市を中心に、東京のベッドタウンとなる千葉県東葛南部地区における高度急性期医療を担う地域中核病院です。地域の医師会等と密接な連携を形成した地域医療支援病院としての役割にとどまらず、がん診療連携拠点病院、ドクターカーシステムを配備した救命救急センター等のような多機能を併せ持ちます。 このため、きわめて稀な疾患と血液内科領域を除く幅広い多数の内科系疾患の診療経験を可能とさせ、最新の医療を行うことによる内科各科の高度の専門性を高められるだけでなく、主担当医として診療に取り組むことで得らえる総合的かつ全人的医療を実践できる内科専門医の育成を目指し、さらにはグローバルに活躍できる人材を育成します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 23 名，日本内科学会総合内科専門医 19 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名，日本循環器学会循環器専門医 11 名， 日本内分泌学会専門医 1 名，日本糖尿病学会専門医 3 名， 日本腎臓病学会専門医 1 名日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名， 日本神経学会神経内科専門医 1 名，日本リウマチ学会専門医 3 名， 日本救急医学会救急科専門医 7 名，ほか
外来・入院患者数	内科系外来延べ患者　81,270 名（1 年間） 内科系入院患者実数　 5,754 名（1 年間）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 胸部・腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設　など

24.東邦大学医療センター大森病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です ・研修に必要な図書室とインターネット環境および研修医室の用意があります ・東邦大学大森病院有期職員（常勤医師）として労働環境が保証されます ・メンタルストレスに適切に対処する部署（精神科産業医）を設置しています ・ハラスメントを取り扱う委員会を設置しています ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休息室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています ・東邦大学保育園および病時保育施設を有し、産休、育児休暇にも対応しています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・75名の内科学会指導医が在籍しています ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：消化器内科教授）およびプログラム管理者が基幹施設と連携施設に設置されている研修委員会との連携を行います ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員会が設置されています ・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医の受講を義務付けます（受講に際して時間的余裕が生まれるよう配慮いたします） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医の受講を義務付けます（受講に際して時間的余裕が生まれるよう配慮いたします） ・定期的にCPCを開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます（受講に際して時間的余裕が生まれるよう配慮いたします） ・地域参加型カンファレンスを定期的に開催し、専攻医の受講を義務付けます（受講に際して時間的余裕が生まれるよう配慮いたします） ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付けます（受講に際して時間的余裕が生まれるよう配慮いたします） ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修部が対応します
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています ・専門研修に必要な剖検も行っています
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室やインターネット環境および研修医室の用意があります ・倫理委員会を設置し（含COI委員会)、定期的に開催しています ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています ・日本内科学会総会もしくは同地方会で学会発表を行っています
指導責任者	五十嵐　良典
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 68 名 日本内科学会総合内科専門医 59 名 日本消化器学会消化器病専門医 26 名 日本アレルギー学会専門医 1 名 日本肝臓学会肝臓専門医 9 名 日本循環器学会循環器専門医 20 名 日本内分泌学会内分泌専門医 7 名 日本腎臓学会腎臓専門医 8 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 9 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 12 名 日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 13 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 8 名 日本感染症学会感染症専門医 3 名 日本老年医学会専門医 1 名

外来・入院患者数	外来患者数：2,308 人（１日平均）・入院患者数：809 人（１日平均）
経験できる疾患群	稀少疾患を含めて、研修手帳にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することが出来ます
経験できる技術・技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することが出来ます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診･病病連携なども経験出来ます また、（病診･病病連携なども含めた）地域連携のための研修会への受講を通じて、より深く地域連携を理解することが可能です
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本救急医学会認定施設 日本心身医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本大腸肛門病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本超音波医学会研修施設 日本核医学会研修施設 日本輸血･細胞治療学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本集中治療医学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定導施設 日本神経学会教育施設 日本リハビリテーション医学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本静脈経腸栄養学会研修施設 日本内分泌学会認定施設 日本甲状腺学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本臨床薬理学会認定施設 日本アレルギー学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本病理学会認定施設 日本感染症学会認定施設 日本心療内科学会認定施設 日本高血圧学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本動脈硬化学会認定施設 日本脈管学会認定研修指定施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 日本消化管学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本超音波医学会専門医研修施設 など

25.株式会社麻生　飯塚病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境（有線 LAN, Wi-Fi）があります. ・飯塚病院専攻医として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります. 医務室には産業医および保健師が常駐しています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に 24 時間対応院内託児所，隣接する施設に病児保育室があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 15 名在籍しています（下記）. ・内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する，内科専門研修委員会を設置します. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2018 年実績　医療倫理 4 回，医療安全 24 回，感染対策 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度開催予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2014 年実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（地域研究会、地域学術講演会、地域カンファレンスなど、2017 年実績 73 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・特別連携施設の専門研修では，症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います. なお，研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 45 以上の疾患群）について研修できます. ・専門研修に必要な剖検を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります
指導責任者	増本　陽秀 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて，プライマリ・ケアから高度急性期医療，地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます. 米国ピッツバーグ大学の教育専門医と，6 年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た，教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います. 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です. 将来のキャリアパスが決定している方，していない方，いずれに対しても価値のある研修を行います.

指導医数 （常勤医） 2017 年度実績	日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 40 名 日本消化器病学会消化器専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 11 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 8,805 名（1 ヶ月平均）　入院患者 1,504 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会 教育病院 日本救急医学会 救急科指定施設 日本消化器病学会 認定施設 日本循環器学会 研修施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本血液学会 研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本腎臓学会 研修施設 日本肝臓学会 認定施設 日本神経学会 教育施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本臨床腫瘍学会 研修施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本呼吸療法医学会 研修施設 飯塚・頴田家庭医療プログラム 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A 日本胆道学会指導施設 日本がん治療医認定医機構 認定研修施設 日本透析医学会 認定施設 日本高血圧学会 認定施設 日本脳卒中学会 研修教育病院 日本臨床細胞学会 教育研修施設 日本東洋医学会 研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼動施設　など

26.静岡県立静岡がんセンター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	指導医が在籍しています。 　施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 　医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を開催しそのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13　分野のうち、消化器、呼吸器を中心に定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表をしています。
指導責任者	副院長　小野　裕之
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医５名、日本内科学会総合内科専門医25名、 日本消化器病学会消化器専門医28名、日本消化器内視鏡学会専門医17名、 日本循環器学会循環器専門医2名、日本呼吸器学会呼吸器専門医10名、 日本血液学会血液専門医６名、日本感染症学会専門医　3 名　ほか （2020.3 現在）
外来・入院患者数	総入院患者　15,070 名　総外来患者　294,922 名（2018 年度）
経験できる疾患群	13 領域のうち、がん専門病院として 11 領域 49 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	がんの急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応したがん患者の診断、治療、緩和ケア、終末期医療等を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本感染症学会連携研修施設　など

27.国家公務員共済組合連合会　虎の門病院分院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	各スタッフの指導の下、腎臓、リウマチ膠原病疾患の診療を受け持って頂きます。血液透析ベッドは 56 床、腹膜透析症例約 20 名。シャント手術や PTA、腎移植も行われており幅広い経験が可能な環境です。また当院独自の診療として多発性嚢胞腎、嚢胞肝症例に対する TAE や難治性嚢胞感染に対するドレナージ療法を経験できます。リウマチ領域では関節エコーや MRI による画像評価や、腎機能障害を伴う膠原病症例の対応が経験できます。腎生検症例も豊富で多数の症例経験が可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	地域の腎臓、リウマチ膠原病疾患の診療における中核的な医療機関の果たす役割、高度な医療、難治例・複数の診療科が関与する症例・稀少疾患を中心とした診療経験を研修します。週一回症例検討会と、論文の抄読会が開催されており活発な議論がなされております。症例検討会には地域で開業されている先生方にもご参加いただいております。月 1 回虎の門病院本院にて、病理部と合同で腎生検カンファが行われ腎生検症例の提示と議論が行われております。また積極的に臨床研究や症例報告などの学術活動を行って頂き、その素養を身につけていただくことが可能です。虎の門病院は腎臓専門医、リウマチ専門医，透析専門医の教育認定施設であり、それらの専門医の取得も可能です。地域包括病棟の患者さんに対しては MSW、理学療法士など他職種と連携し退院支援に向けて方針策定にも参加していただけます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	透析 bed　56 床。腹膜透析症例約 20 名。TAE 時は自分達で血管造影行っております。関節エコーも自分たちで行っております。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	週一回例検討会と、論文の抄読会。月 1 回腎生検カンファ。積極的に外部の研究会での参加、発表を行っております。
指導責任者	虎の門病院分院　腎センター、リウマチ膠原病科　部長　澤　直樹
指導医数 （常勤医）	6 名
外来・入院患者数	入院患者数 70-90 名。透析 bed　56 床。日勤、準夜の 2 ｸｰﾙ施行。腹膜透析症例約 20 名。
経験できる疾患群	腎疾患一般、透析を含めた体外循環技術、特殊治療一般、多発性嚢胞腎、リウマチ膠原病。腎移植症例
経験できる技術・技能	腎生検、TAE、嚢胞ドレナージ、血液、腹膜透析管理、関節エコー
経験できる地域医療・診療連携	地域で開業されている先生方を交えた症例検討会。地域包括病棟における退院支援への方針策定への参与。
学会認定施設 （内科系）	内科専門医教育関連病院 腎臓専門医認定教育施設 リウマチ専門医認定教育施設 透析専門医教育関連施設

28. 横浜市立みなと赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・横浜市立みなと赤十字病院の常勤嘱託医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスには労働安全衛生委員会が適切に対処します。 ・ハラスメント防止規定に基づき委嘱された相談員がいます。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が３０名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（プログラム統括責任者（副院長）（指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育研修センターを設置します。 ・医療倫理（２０２４年度実績１回）・医療安全（２０２４年度実績２回）・感染対策講習会（２０２４年度実績２回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（２０２５年度予定）を参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ＣＰＣ を定期的に開催（２０２４年度実績１１回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（みなとセミナーなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（２０２４年度 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、神経、内分泌、代謝、腎臓、血液、膠原病、アレルギー、感染症、救急科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・７０疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも５６以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（２０２４年度実績８体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・臨床倫理委員会を設置し、定期的に開催（２０２４年度実績１６回）しています。 ・医療倫理委員会を設置し、定期的に開催（２０２４年度実績６回）しています。 ・臨床試験支援センターを設置し、治験審査委員会（２０２４年度実績１２回)、自主臨床研究審査委員会（２０２４年度実績１３回）を定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計３演題以上の学会発表（２０２４年度実績６演題）をしています。
指導責任者	萩山　裕之 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、横浜市の中心部である中区に立地し、山下公園、横浜中華街といった繁華街から徒歩 15 分という距離にあります。地域医療支援病院、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院に指定され、救急車の受け入れ台数は例年 10,000 台を超え全国でも際立つ存在となっています。またがんセンターや心臓病などのセンター化を進め、PET/CT、高機能 MRI・CT、手術支援ロボット等々を整備し、横浜南部医療圏の地域医療の中核を担っています。救急医療、悪性疾患に対する

	集学的治療、緩和医療、地域医療機関への診療支援などを積極的に行っており、経験できる症例数は多く多彩であり、各内科系診療科の専門医・指導医が指導に当たります。内科専攻医として、救急から緩和、地域医療の幅広い研修や、各領域の専門性の高い研修が可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医３０名 日本内科学会総合内科専門医 21 名 日本消化器病学会消化器専門医７名 日本肝臓学会専門医６名 日本循環器学会循環器専門医 9 名 日本糖尿病学会専門医 3 名 日本内分泌学会専門医 3 名 日本腎臓病学会専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名 日本血液学会血液専門医４名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名 日本リウマチ学会専門医 3 名 日本感染症学会専門医１名 内分泌内科・糖尿病内科領域専門医 3 名　など
外来・入院患者数	外来患者 9，207 名（内科１ヶ月平均）　入院患者 7,968 名（内科１ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある１３領域、７０疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診察連携	急性期医療だけでなく超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本神経学会教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼働施設 日本リハビリテーション医学会研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本高血圧学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本透析医学会教育関連施設

29. 茨城県立中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 卒後臨床研修評価機構認定病院です. ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・ 茨城県常勤医師として労務環境が保障されています. ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康支援室）があります. ・ ハラスメント委員会が茨城県に整備されています. ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・ 近接して保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 36 名在籍しています. ・ 専門研修プログラム管理委員会　プログラム統括責任者（内科副病院長　総合内科専門医かつ指導医）；専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム委員会と臨床研修センターを設置します. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 5 回）し，専攻医に 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 研修施設群合同カンファレンスに専攻医の受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的 余裕を与えます. ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.（茨城県内科学会，笠間市医師会胸部疾患検討会，筑波大学感染症内科抄読会，茨城県感染症診療カンファレンスなど） ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（基幹施設：2024 年度開催実績 1 回：受講者 5 名／2024 年度県内開催実績 7 回）を 義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します. ・ 特別連携施設の専門研修では，電話や茨城県立中央病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記） ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます. ・ 専門研修に必要な剖検（2024 年度実績：内科系 5 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 4 演題）をしています.
指導責任者	鏑木　孝之 【内科専攻医へのメッセージ】 茨城県立中央病院は，茨城県立中央病院は茨城県水戸医療圏の中心的な急性期病院・都道府県がん診療拠点病院です. 当院での内科専門研修をでは担当医として，初診あるいは入院から経時的に診断・治療を行い幅広い経験を重ねて頂きます.内科各サブスペシャルティの専門医が多く在籍しているため，紹介患者が多く，プライマリケアとともに専門診療の経験を重ねる事ができます。また外科，放射線科，病理診断科など専門スタッフの充実しており，カンファランスを通じた院内連携を経験して頂きます.診療科により臨床試験，治験の経験ができ最新の臨床研究に接することができます.プログラム目標として専門知識を持ちながらも地域医療にも貢献できる内科専門医育成を目指します.
指導医数 （常勤医）	内科指導医 36 名，日本内科学会総合内科専門医 28 名，日本専門医機構内科専門医 2名, 日本内分泌学会専門医 1 名,日本消化器病学会消化器専門医　9 名，日本循環器学会循環器専門医 6 名,日本糖尿病学会専門医 1 名，日本腎臓病学会専門医 4 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名，日本血液学会血液専門医 5 名，　日本リウマチ学会専門医 2 名，日本感染症学会専門医 1 名，日本神経学会神経内科専門医 1 名，日本救急医学会救急科専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	内科延べ外来患者 78,796 名　　内科延べ入院患者 68,576 名（2024 年度）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本専門医機構内科専門研修プログラム基幹病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本感染症学会研修施設認定 日本血液学会血液研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本神経内科学会准教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ほか

30. 医療法人徳洲会 沖永良部徳洲会病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期医療研修における地域医療研修施設です。 ·研修に必要な医局図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 ·沖永良部徳洲会病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります。 ·ハラスメント行為等（職員暴言・暴力担当）に関する窓口が沖永良部徳洲会病院に設置されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024年度各2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンス（2025 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·基幹施設である CPC、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ·地域参加型のカンファレンスは基幹病院が定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、神経、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	藤崎　秀明 【内科専攻医へのメッセージ】 沖永良部徳洲会病院は鹿児島県の大島郡にあり、平成 2 年の創立以来、沖永良部島で唯一の病院として地域医療に携わってきました。 基本理念として「島民の生命と健康な生活を守るために、医療福祉に全力で取り組む」を理念として取り組んでいます。 沖永良部島には、当院以外に診療所が 5 施設あり、各診療所とも連携を行っております。 しかし、離島のため、紹介を受け、診療で不明なことがある場合は、奄美大島や鹿児島、または、沖縄県の医療機関の専門医からの指示を受けることもできます。 病院としての医療機能は、一般外来診療、入院診療、訪問診療、透析診療、産婦人科（分娩有）、リハビリテーション、内視鏡、手術室、健診・ドック等があり、福祉機能としては、居宅支援事業所、通所リハビリ等にも取り組んでおります。 外来では地域の内科病院として、内科一般および専門外来の充実に努め、健診・ドックの充実にも努めています。 医療療養病床として、①慢性期・長期療養患者の入院診療、②慢性期入院患者の在宅医療への復帰支援③急性期病棟からの移行等を実施しています。 在宅医療は、医師と看護師による訪問診療をおこなっています。病棟・外来・訪問看護・併設居宅支援事業所との連携のもとに実施しています。 病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない、各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性、在宅療

	養の準備を進め、外来・在宅担当医師・スタッフへとつないでいます。病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない，各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性，在宅療養の準備を進め，外来・在宅担当医師・スタッフへとつないでいます.
指導医数（常勤医）	１（１）
外来・入院患者数	外来患者 60,332 名（年間）　入院患者 46,663 名（年間）
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、療養病床であり、かつ地域の内科単科の病院という枠組みのなかで、経験していただきます。 健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ。 急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価)。複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について。患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方。 嚥下機能評価（嚥下造影にもとづく）および口腔機能評価（歯科医師によります）による、機能に見合った食事の提供と誤嚥防止への取り組み。 褥創につてのチームアプローチ。
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については、急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療。残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整。 在宅へ復帰する患者については、地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と、医療との連携について。 地域においては、連携している介護施設における訪問診療と、急病時の診療連携、入院受入れ。地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携等
学会認定施設 （内科系）	・初期臨床研修における地域医療研修施設 ・新専門医制度総合診療専門医研修プログラム連携施設

31. 松山赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院. ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある. ・松山赤十字病院常勤医師として労務環境が保障されている. ・メンタルストレスに適切に対処する部署がある. ・ハラスメント委員会が整備されている. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されている. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 28 名在籍している. ・内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置し教育研修推進室と連携して研修の質を担保する. ・以下のカンファレンス，講習会等を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える. ① 医療倫理・医療安全・感染対策等の講習会 ② 研修施設群合同カンファレンス ③ CPC ④ 地域参加型のカンファレンス ⑤ JMECC ・日本専門医機構による施設実地調査には教育研修推進室が対応する. ・特別連携施設研修では，電話や面談，カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行う.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野の少なくても 12 分野で常時専門研修が可能な症例数を診療している. ・70 疾患群のうち少なくても 58 以上の疾患群について研修できる. ・専門研修に必要な剖検数を確保している.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備している. ・医療倫理委員会を設置し，定期的に開催している. ・治験管理センターを設置し，定期的に治験審査委員会を開催している. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の発表をしている.
指導責任者	藤﨑智明 【内科専攻医へのメッセージ】 松山赤十字病院は，松山医療圏の中心的な地域医療支援病院であり，当プログラムでの内科専門研修で，将来にわたり愛媛の地域医療を支える内科専門医育成を目指します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 31 名，日本内科学会認定内科指導医 28 名， 日本消化器病学会消化器専門医 10 名，日本循環器学会循環器専門医 6 名， 日本糖尿病学会専門医 3 名，日本腎臓病学会専門医 6 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名，日本血液学会血液専門医 6 名， 日本神経学会神経内科専門医 1 名，日本リウマチ学会専門医 2 名， 日本感染症学会専門医 3 名，日本老年医学会専門医 2 名 日本肝臓学会専門医 6 名 日本高血圧学会専門医 1 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名 日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医・指導医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 2 名，日本消化器内視鏡学会専門医 9 名 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 1 名，日本認知症学会認定認知症専門医 1 名， ほか
外来・入院患者数	外来患者 12,508 名（内科 1 ヶ月平均）　入院患者 6,891 名（内科 1 ヶ月平均） （令和 6 年度実績）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本救急医学会専門研修連携施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 など

32. 秦野赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルス相談室）があります。 ·ハラスメント委員会が整備されています。 ·臨床研修医室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 3 名在籍しています。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を開催しています。 ·CPC 委員会を年間 1～2 回開催しています。 ·地域参加型のカンファレンスとして、地域医療連携懇話会を開催しています。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	内科領域のうち、循環器内科、腎臓内科で専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，開催（年度実績 9 回）しています. ·内科学会はじめ他の内科系学会への学会発表希望者には指導医からの症例選定や発表指導を受けられます。
指導責任者	澤田　玲民
指導医数 （常勤医）	J-OSLER 登録医師 3 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本透析医学会指導医・専門医 1 名、 日本腎臓学会指導医・専門医 1 名、日本内科学会認定内科医 5 名、日本高血圧学会指導医 1 名、 日本循環器学会認定循環器専門医 1 名、日本内科学会指導医 2 名、心血管カテーテル治療専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 1 名、消化器内視鏡専門医 1 名、消化器病指導医 1 名、消化器病専門医 2 名、胃腸科専門医 1 名、肝臓指導医 1 名、肝臓専門医 2 名、 日本神経学会神経内科専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 3,227 名（内科 1 カ月平均）　入院患者 2,573 名（内科 1 カ月平均）
経験できる疾患群	腎臓内科・循環器内科
経験できる技術・技能	
経験できる地域医療・診療連携	当院は、秦野市の中核病院として救急医療や消化器病センターに尽力しています。 また、がん診療にロボット支援手術も取り入れると共に、心血管疾患（急性冠症候群、脳卒中）に対する高度治療も尽力して おります。なお、地域医療支援病院として、実地医家との地域連携を図ると共に、大規模災害時には、赤十字病院として災害救護の役割を果たしております。
学会認定施設 （内科系）	新専門医制度　内科領域連携施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本インターベンション学会研修関連施設

33. 順天堂大学医学部附属順天堂医院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・ 当院就業規則として労務環境が保障されています. ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（本郷・お茶の水キャンパス健康管理室)があります. ・ ハラスメントの対応とし、「本郷･御茶ノ水キャンパス ハラスメント相談窓口」として人事課、健康管理室の 2 つの窓口を設置しています. ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように､休憩室､更衣室､シャワー室、当直室が整備されています. ・ 敷地内に院内保育所が用意されています.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･内科学会指導医は 218 名在籍しています. ・ 施設として全領域の専門研修委員会が設置されているほか、内科は、内科統括責任者を中心とした内科専門研修プログラム管理委員会およびプログラム管理者（内科領域教授、総合内科専門医・各領域指導医より構成)を中心に専門医研修プログラムの各種小委員会が設置しています. さらに、基幹施設､連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理委員会を設置します. ・ 病院医療倫理委員会(11 回)･医療安全管理委員会（17 回）･感染対策講習会（2 回）医療にかかわる安全管理のための職員研修（20 回）を定期的に開催(2024 年度実績)し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与えます. ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し､専攻医に受講を義務付け、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・病院 CPC(年間実績４回） を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 各内科における地域参加型のカンファレンス・地域講演会のほか、順天堂医学会学術集会（2024 年度実績年 2 回）医師会医学会等を定期的に開催し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2024 年度開催実績 10 回：受講者 59 名）を受講する機会を与えており、そのための時間的余裕を与えます. ・ 日本専門医機構による施設実地調査については、当院のプログラム管理委員会、および臨床研修センターが対応します. ・特別連携施設の専門研修では､電話やメールでの面談･Web 会議システムなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ・ 専門研修に必要な剖検（2022 年 27 体、2023 年 28 体、2024 年 24 体の実績）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・ 順天堂大学臨床研究審査委員会を設置し､定期的に受託研究審査会を開催(2024 年度実績 12 回)しています. ･治験審査委員会を設置し，定期的に開催（2024 年度間実績 11 回）しています. ・ 医学系研究等倫理委員会を設置し､定期的に開催(2024 年度実績 11 回)しています. ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 10 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	鈴木祐介 【内科専攻医へのメッセージ】 順天堂大学は、合計6つの附属病院を有し、それぞれの地域の協力病院と連携し、

	人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。 順天堂医院は高度医療、先進医療を提供する病院として、他の医療機関と相互連携を図り、診療を行う厚生労働省に認定された「特定機能病院」です。 当プログラムは、大学病院として、質の高い内科医を育成するばかりでなく、各人の希望に沿って、より専門性に特化した研修内容や高度先進医療等を経験できます。一方で各附属病院や当院と関連のある教育病院において、より地域の特性に沿った医療を行うことも可能です。 主担当医として､外来診療や入院から退院（初診･入院～退院･通院）まで経時的に､診断･治療の流れを通じて､社会的背景･療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。 多くの専門医指導医からの指導を受けるとともに大学病院の特質となる学生教育の一端を担うことで、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスを提供する一員として、今後の医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目標にします。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 218 名，日本内科学会総合内科専門医 114 名， 日本消化器病学会専門医 37 名， 日本肝臓学会専門医 19 名，日本循環器学会専門医 40 名， 日本内分泌学会専門医 10 名，　日本糖尿病学会専門医 26 名， 日本腎臓学会専門医 13 名，日本呼吸器会専門医 31 名， 日本血液学会専門医 13 名，　日本神経学会専門医 35 名， 日本アレルギー学会専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 25 名， 日本感染症学会専門医 3 名，日本老年医学会専門医 4 名， 日本救急医学会専門医名 3 名，消化器内視鏡学会専門医 36 名， がん薬物療法専門医 3 名
外来・入院患者数	外来患者 87,359 名（内科 1 ヶ月平均）　入院患者 29,374 名（内科 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域､70 の症例を幅広く経験することができます. そのほかに大学病院ならでは希少な症例等幅広い症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	一般診療・急性期医療だけでなく､超高齢者化社会に対応した地域に根ざした医療として､近郊の医療圏の病病・病診連携施設等で訪問診療や外来診療や離島医療なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会教育認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本老年医学会認定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本輸血学会認定医制度指定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設

	日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修指定施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 日本アフェレシス学会教育認定施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本認知症学会専門医教育施設 日本脳卒中学会認定教育施設 など

34. 相模原病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 国立病院機構のシニアレジデントとして労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレス、ハラスメントに適切に対処する窓口がある。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・ 内科指導医が 22 名在籍している。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催している（2020 年度実績 医療倫理に関しては研究センター主導で CITI Japan の受講を促し、倫理委員会についても月一回程度定期的に行っている。医療安全講習、感染対策に関しても年 2 回以上の開催をしている)。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催（2023 年度実績 4 回、2024 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、 呼吸器、神経内科、アレルギー、膠原病、血液内科、糖尿病・内分泌代謝内科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 また、総合内科に関しては専門各科が協力し応需をしており、内科研修内に経験可能である。 ・ 感染症については、症例は十分数存在し、また救急部はないが一般二次内科救急を輪番で経験することにより、これらの分野に対する研鑽を積むことが可能である。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 1 演題）をしている。
指導責任者	森田 有紀子
指導医数 （常勤医）	22 名
外来・入院患者数	外来患者数：6,300 名(内科系 1 か月平均)、 入院患者数：350 名(内科系 1 か月平均)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群、200 症例のうち、189 症例を経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本神経学会専門医認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本血液内科学会認定教育施設 など

35. 鶴岡市立荘内病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境（Wi-Fi 環境含む）があります。 ・病院近くに医師公舎と保育所があります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 5 名在籍しています。(2025 年 4 月現在) ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績　医療安全 8 回、感染対策 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度開催 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医の参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、血液、神経、膠原病、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	安宅　謙 【内科専攻医へメッセージ】 地域の中核病院として、急性期医療から common disease まで、豊富な症例が経験でき、また高齢者医療を中心に中核医療と地域の診療所との病診連携についての研修ができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、 日本血液学会血液専門医 1 名、日本認知症学会認知症専門医 1 名、 日本消化器病学会消化器病専門医 2 名、日本脳神経血管内治療学会専門医 1 名、 日本脳卒中学会脳卒中専門医 1 名、日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ治療学会心血管カテーテル治療専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者　　5552 名（内科 1 ヶ月平均）　(2024 年度実績) 入院患者　　4991 名（内科 1 ヶ月平均）　(2024 年度実績)
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域のうち 8 領域について経験可能であり，それに付随する疾患に関して経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	山形県庄内南部地域の中核病院としての地域内の診療所との診療連携の役割を経験することが可能です。
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本脳卒中学会研修教育施設 日本認知症学会教育施設 日本消化器病学会関連施設 日本神経学会専門医制度准教育施設

36. 帝京大学ちば総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・帝京大学ちば総合医療センター後期研修医（1 年目・2 年目）・助手（3 年目）として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント担当者がいます。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 11 名在籍しています（下記)。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者，内科研修委員会委員長）にて、基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会（研究教育委員会）と臨床研修センター（経営管理課総務係）を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2020 年度実績 2 回・各 2 症例）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（市原若手医師の会、市原市医師会主催講習会）を定期的に開催し、専攻医に受講を可能とする時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち血液内科を除く全分野において、定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･70 疾患群のうち全疾患群について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 12 体）を行っています。
指導責任者	中村　文隆（内科研修委員会委員長：寺脇博之） 【内科研修委員会委員長から内科専攻医へのメッセージ】 当施設の最大のアピールポイントは、症例数が豊富なことです。当施設は千葉県の南半分（人口 123 万人）における唯一の大学病院としてあらゆる疾患のゲートキーパーとなっているため、数多くの症例を経験することが出来ます。なお内科教育施設の中における内科専攻医 1 人当たりの登録症例数（2019 年）を比較してみると、私どもの帝京大学ちば総合医療センターは関東で 1 位であり、さらに全国の大学病院の中で 1 位です（121 例)。加えて、各臓器別の専門医取得が容易、医学博士号の取得が可能、各種学会参加が容易、キャリアパスが豊富、など、大学病院としてのメリットも併せ持っています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会専門医・指導医：11 名 日本消化器病学会専門医：2 名 日本アレルギー学会専門医：1 名 日本循環器学会専門医：3 名 日本リウマチ学会専門医：3 名 日本内分泌学会専門医： 4 名 日本感染症学会専門医：4 名 日本腎臓学会専門医： 2 名 日本糖尿病学会専門医： 4 名 日本呼吸器学会専門医：3 名 日本血液学会専門医： 0 名 日本肝臓学会専門医：1 名

	日本神経学会専門医：2 名
外来・入院患者数	入院患者数 9,177 人（1 か月あたり）外来患者数 18,659 人（1 か月あたり）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。なお当院は、全国の大学病院の中で唯一、神経疾患の在宅診療を行っています。
学会認定施設 （内科系）	日本病理学会研修認定施設 日本内科学会認定研修医施設 日本循環器病学会認定研修施設 日本消化器病学会認定医制度の認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度による認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本透析医学会認定医制度規則に規定する認定施設 透析療法従事職員研修の実習指定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度の研修施設 日本血液学会認定医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度における教育施設 日本栄養療法推進協議会認定 NST 稼動施設 日本静脈経腸栄養学会による認定教育施設 日本核医学会認定医教育病院 日本脳卒中学会専門医認定制度による研修教育施設 日本リハビリテーション医学会研修認定施設 日本集中医療医学会専門医研修施設 日本救急医学会専門医制度による認定医指定施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本アフェレシス学会認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設認定医 日本リウマチ学会教育施設認定医 日本脈管学会認定研修施設 日本腎臓学会研修施設

37. JCHO 東京山手メディカルセンター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·当院任期付職員（レジデント）として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ·ハラスメント委員会が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所はないが，専攻医が利用を希望した場合は，保育施設との提携も含め，専攻医が仕事と育児の両立をできるよう病院としてサポートします.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 26 名在籍しています（下記）. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2021 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス：医療連携講演会（2021 年度実績 1 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌・代謝，腎臓，呼吸器，血液，膠原病，および救急の 10 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2019 年度実績 5 演題、2020 年度実績 1 演題）をしています.
指導責任者	笠井　昭吾 【内科専攻医へのメッセージ】 当院内科は総勢約 30 名の各臓器別専門領域医師で構成され、患者数 3000 名以上と国内屈指の診療実績を誇る炎症性腸疾患センターをはじめとして、各専門領域で多くの専門医を有し、それぞれの領域で高いレベルの医療を提供しています。そして、高い専門性を有しつつ、その中で「総合内科」として 1 つの科にまとまっており、専門領域間の「垣根が低い」のではなく「垣根がない」チームワーク・総合力を持っています。スペシャリストが集まり、チームとして行う総合診療は、他の病院にはない、当院総合内科の大きな特徴です。総合内科として初診外来、救急診療、地域連携、研修医教育を行うとともに、地域医療・介護機関と連携し地域包括ケアの実践と、総合医マインドを持った研修医の育成に努めています。東京の中心、新宿で 60 年以上の長い歴史で培ってきた地域医療機関との連携を生かした、「地域密着型」の研修を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 26 名，日本内科学会総合内科専門医 11 名，日本消化器病学会消化器専門医 9 名，日本循環器学会循環器専門医 6 名，日本糖尿病学会専門医 1 名，日本腎臓病学会専門医 4 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名，日本血液学会血液専門医 2 名，日本アレルギー学会専門医（内科）2 名，日本感染症学会専門医 2 名，日本肝臓学会 3 名，日本救急医学会救急科専門医 2 名，日本リウマチ学会専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 95,846 名（2020 年度）　入院患者 3,222 名（2020 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域，61 疾患群（神経以外）の症例を経験することができます.

経験できる技術・技　能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．都市部ならではの「地域密着型の研修」を行ないます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本アレルギー学会認定準教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定施設 日本病院総合診療医学会認定施設 エイズ治療拠点病院 東京都災害拠点病院　など

38. 同愛記念病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修制度基幹型臨床研修病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・同愛記念病院として適切な労務環境が保障されています。 ・メンタルストレス・ハラスメントに適切に対処する部署が設置されていす。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう､女性医師用の休憩室､更衣室､仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内保育施設があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科学会指導医は 19 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：総合内科専門医かつ指導医、委員：各診療科部長かつ指導医）が、基幹施設と連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と診療各科における臨床研修を管理する研修委員会が設置されています。 ・医療倫理･医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催します。 ・地域参加型のカンファレンス(墨田連携症例検討会など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、神経・膠原病を除く 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学関東支部例会などでの積極的な学会発表をしています。 （2021 年度実績 10 演題、2022 年度実績 7 演題、2023 年度実績 6 演題） ・臨床研究にあたり、倫理委員会が設置され定期的に開催しています。 ・治験・倫理審査委員会が設置され、定期的に開催しています。
指導責任者	手島　一陽（内科専門研修プログラム統括責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 同愛記念病院の歴史は、1923 年(大正 12 年)に発生した関東大震災に際し、米国赤十字社が中心となり募集を行った 義援金の一部をもとに、被災民や貧困者を救援する目的で、母体となる旧財団が設立されたことに遡ります。 東京都区東部医療圏の急性期病院であり、現在も、その設立の趣旨を全うし、常に地域の要請に応えられる病院を 目指しています。 本プログラムでの内科専門研修は、各科とも熱心な指導医・上級医の指導のもとで行われ、中規模病院ならではの、 手技・処置の豊富さ、外科系各科・放射線科・病理科等との緊密で機動的な連携が可能な点も魅力的です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 19 名
外来・入院患者数	外来患者　6,394 名（月平均）　入院患者　483 名（月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診･病病連携が経験できます。
学会認定施設 （内科系）	臨床研修指定病院 日本内科学会認定医制度教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設

	日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修関連施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本血液学会研修認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本感染症学会認定教育施設 日本医学放射線学会専門医修練機関 日本病理学会病理専門医研修施設　　など

39. 岩手医科大学附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院 ・施設内に研修に必要なインターネットの環境が整備されている ・適切な労務環境が保障されていること ・メンタルストレスに適切に対処 ・ハラスメント委員会あり ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されている（受入実績多数あり） ・学内の保育施設等が利用可能
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が多数在籍しているほか、院内で研修する専攻医を管理する体制がある。院内の指導医等を中心に「内科専門研修プログラム研修委員会」を設けている。 ・医療安全等の講習会については、院内の医療安全管理部が中心となり、院内の全職員を対象にした講習会を実施している。 ・カンファランスのほか、病理診断科によるＣＰＣ複数回開催している。また、岩手県・秋田県・青森県・宮城県及び和歌山県等にある医療機関と専門研修施設群を構築し、定期的なカンファレンスも行われている。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	内科（Generality）専門医は勿論のこと、将来、内科指導医や高度な Generalist を目指す方も含まれます。また、将来の Subspecialty が決まっている方やそうでない方もあり得ます。内科総合コースは内科領域の研修を総合的に行いながら、Subspecialty など専攻医の希望に合わせた研修を進めることの出来るコースであり、３年間の研修中は入局先診療科で研修を行いながら、内科専門研修で求められる疾患(症例)を経験するため、他科での研修を並行して行います。 Subspecialty の決まっている専攻医については、ニーズを踏まえローテートを調整することが出来るため、修了要件を満たしつつ重点的に希望する領域を研修することが可能です。Subspecialty の決まっていない専攻医は内科学講座の所属となります。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	各所属診療科において、各種学会や学術集会、医師会等の活動へ多数参加している。
指導責任者	伊藤　薫樹
指導医数 （常勤医）	59 名
外来・入院患者数	入院（実数）15,801 名、外来（実数）8,458 名（2020 年度、病院全体）
経験できる疾患群	70 疾患群を経験可能
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に記載の項目は全般経験可能
経験できる地域医療・診療連携	広い県土を有する岩手県内の病院や診療所等を中心に、沿岸被災地等での研修が可能。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設 日本肝臓学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器外科学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本透析医学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門施設

	日本腎臓学会研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本脈管学会認定研修施設 日本リハビリテーション医学会認定施設 植え込み型除細動器／ペーシングによる心不全治療研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設認定 日本心臓血管外科学会専門医認定機構基幹施設 日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション研修施設認定腹部ステントグラフト実施施設 心臓リハビリテーション指導士認定研修施設 ステントグラフト実施施設 臨床腫瘍学会認定施設 日本血液学会研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本神経学会教育施設 日本老年医学会認定施設 日本認知症学会認定施設 本静脈経腸栄養学会･NST 稼動施設　救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構がん治療認定医認定研修施設 経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）専門施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本動脈硬化学会専門医認定教育施設 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本感染症学会連携研修施設 経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設　など

40. 東北医科薬科大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院（基幹型臨床研修病院）です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・職員のみ利用できる保育園があり、夜間保育も行っています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 30 名在籍しています。 ・内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスも定期的に開催することを予定し、専攻医に参加するための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を適切に行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究が可能な環境が整っています。 ・倫理委員会が設置されています。 ・臨床研究センター、治験センターが設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 5 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	佐藤　賢一
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 30 名、日本内科学会総合内科専門医 49 名、 日本消化器病学会専門医 10 名、日本循環器学会専門医 14 名、 日本糖尿病学会専門医 4 名、日本老年医学会専門医 3 名、 日本腎臓学会専門医 9 名、日本呼吸器学会専門医 6 名 日本神経学会専門医 8 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、 日本感染症学会専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医 2 名　ほか
外来・入院患者数	総外来患者（実数）36,230 名・総入院患者（実数）8,930 名［2020 年度実績］
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設

	日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本老年医学会認定施設　など

41. 自治医科大学附属さいたま医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・自治医科大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ・ハラスメント相談所が大学内に整備（電話相談，保健室，衛生委員会，産業医）されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・職員宿舎を利用できます. ・敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 37 名在籍しています. ・内科専門研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうち 35 以上の疾患群で研修できます. ・専門研修に必要な剖検を行っている.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究の実施にあたっては，必要に応じ，自治医科大学医学部臨床研究支援センター（Support Center for Clinical Investigation）または自治医科大学地域医療オープン・ラボのサポートをうけることができます. ・倫理委員会が設置され，年 11 回開催されています. ・臨床試験推進部が設置され，年 8 回以上に治験審査委員会が開催されています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	藤田　英雄 【内科専攻医へのメッセージ】 自治医科大学附属さいたま医療センターにおける医療は，「患者にとって最善の医療をめざす総合医療」と「高度先進医療をめざす専門医療」の一体化とその実践を目標としています．日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう，プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度，技能，知識）を身につけ，標準的かつ全人的な医療を実践できる内科専門医となってください
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 37 名，日本内科学会総合内科専門医 47 名，日本消化器病学会専門医 16 名，日本肝臓学会専門医 4 名，日本循環器学会循環器専門医 11 名，日本内分泌学会専門医 4 名，日本糖尿病学会専門医 7 名，日本腎臓病学会専門医 8 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名，日本血液学会血液専門医 5 名，日本神経学会神経内科専門医 8 名，日本アレルギー学会専門医 0 名，日本リウマチ学会専門医 1 名，日本老年医学会専門医 10 名　※いずれも内科医師のみ
外来・入院患者数	年間外来患者数　6,766 名　　年間入院外来数　7,682 名
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医研修施設 日本老年医学会教育認定施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本不整脈心電図学会認定不整脈専門医研修施設 ステントグラフト実施施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設　など

42. 東京ベイ･浦安市川医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・東京ベイ・浦安市川医療センター専攻医として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります. ・ハラスメント委員会が東京ベイ・浦安市川医療センターに整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・職員用保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 30 名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と医師・研修管理室を設置しています. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2021 年度実績 8 回)し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2020 年度実績 4 回)し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催し（2021 年度実績 4 回)，専攻医に受講を義務付け，そのための 時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス(地域医療講演会，ミニ循環器学会，救急プレホスピタル勉強会，消化器病カンファレンス等)を定期的に開催し，専攻医 に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2020 年度 1 回:受講者 6 名)を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に医師・研修管理室が対応します.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます。・専門研修に必要な剖検平均 10 体を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・倫理審査委員会を設置し，定期的に開催(2021 年度実績 12 回、審査 95 件)しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 5 演題以上の学会発表(2021 年度実績 16 演題)をしています。
指導責任者	江原　淳 【内科専攻医へのメッセージ】 東京ベイ・浦安市川医療センターは千葉県東葛南部地区の中心的な急性期病院です.年間救急搬送受け入れ台数は千葉県内でもトップレベルであり，豊富な急性期疾患かつ市中病院ならではのコモンディジーズを幅広く経験できます.患者層も若年から超高齢者まで幅広く様々です.当センターでは総合内科チームが全ての内科系入院症例を担当し，症例ごとに各専門科がコンサルタントとしてチームに加わる体制をとっています。初期・後期・若手指導医の屋根瓦式の教育体制に加え、さらに各チームにそれぞれ総合内科指導医と各専門科指導医が並列で加わる 2 人指導医体制により，幅広い視野と深い考察という非常にバランスの取れた指導を受けることができます. またこの体制により総合内科ローテートでも各科サブスペシャリティ研修と比較して遜色のない、十分な症例経験が可能です。また専門科研修では更にサブスペシャリティに特化した研修(手技やコンサルト業務等)を行います。 設立当初から幅広く質の高い内科研修を行うことを目的に構築された、自信を持ってお勧めできる研修体制です。皆様のご応募をお待ちしております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 30 名，日本内科学会総合内科専門医 16 名 日本循環器学会循環器専門医 8 名，日本心血管インターベンション治療学会専門医 4 名，日本消化器病学会専門医 2 名，日本消化器内視鏡学会専門医 3 名，

	日本消化管学会専門医 2 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名，日本腎臓学会専門医 4 名，日本透析医学会専門医 2 名，日本救急医学会救急科専門医 10 名， 日本集中治療医学会専門医 4 名，日本リウマチ学会専門医 1 名，日本感染症学会専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数	135,376 名（1 ヶ月平均）　入院患者 8,638 名（延人数 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本集中治療医学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会研修施設 日本緩和医療学会研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設　など

43. 埼玉県済生会加須病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ·ハラスメント委員会が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 9 名在籍しています. ·内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ·70 疾患群のうち少なくても 35 以上の疾患群について研修できます. ·専門研修に必要な剖検（2024 年度 3 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ·治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	雨宮　伸幸 【内科専攻医へのメッセージ】 埼玉県済生会加須病院は，埼玉県利根医療圏の中心的な急性期病院であり，利根医療圏・近隣医療圏にある連携施設で内科専門研修を行い，リサーチマインドを刺激しつつ，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる，内科専門医に成長できるようにメディカルスタッフ全員でサポートいたします
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 9 名，日本内科学会総合内科専門医 9 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名，日本循環器学会循環器専門医 4 名， 日本糖尿病学会専門医 1 名，日本腎臓病学会専門医 3 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，日本血液学会血液専門医 1 名， 日本神経学会神経内科専門医 1 名，日本救急医学会救急科専門医 2 名,ほか
外来・入院患者数	外来患者 12,835 名（1 ヶ月平均）　入院患者 712 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域， 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，臨床の第一線病院ならではのメリットを生かして，実際の症例に基づきながら幅広く深く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診連携なども多数のメディカルスタッフとの協働の中で経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 など

44. 国立病院機構茨城東病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·施設内に研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·常勤医師として適切な労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生委員会）があります. ·ハラスメントに適切に対処する部署（ハラスメント調査委員会）があります. ·女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室，更衣室，当直室等が配慮されています. ·施設専用の宿舎を完備しています. ·敷地外に保育施設等が利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 5 名在籍しています. ·研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績：医療倫理 1 回，医療安全延べ 38 回（各回複数回実施），感染対策延べ 31 回（各回複数回実施））し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·基幹施設で行う CPC の受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（2019 年度実績 12 回）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，呼吸器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 1 演題・2024 年実績 1 演題）を予定しています.
指導責任者	石井　幸雄 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は茨城県の県央・県北地域の胸部疾患の中心的な急性期病院であり，茨城県内の６施設および県外 2 施設のそれぞれを基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として呼吸器分野を中心に内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います．主要な診療疾患は、肺癌等の腫瘍性呼吸器疾患、気管支喘息や COPD などの閉塞性肺疾患、間質性肺炎等のび慢性肺疾患、肺炎、結核、真菌症等の感染性疾患など、呼吸器専門医が経験・習得すべき疾患はほぼ網羅しています。また、地域医療支援病院として、近隣医療施設からの胸部疾患の依頼を積極的に受けており、年間新規入院症例は 500 例程度になります。日本呼吸器学会指導医 4 名・専門医 7 名（内４名は総合内科専門医）が指導に当たります。 また、当院は日本アレルギー学会認定アレルギー専門医教育研修施設であり、当院での研修期間は同専門医の臨床研修期間にカウントされます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 4 名、 日本呼吸器学会指導医 4 名、日本呼吸器学会専門医 7 名、 日本アレルギー学会専門医・指導医 1 名　など
外来・入院患者数	外来：28,853 人/年・入院 48,129 人/年(2024 年度実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある呼吸器領域，8 疾患群の症例を十分に経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある呼吸器領域を中心に内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	一般急性期医療、がん診療、原子力を含む災害医療、難病などの分野を中心にして病診連携、病病連携を経験することができます。
学会認定施設	日本呼吸器学会認定施設

（内科系）	日本呼吸器学内視鏡会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定施設

45. 済生会熊本病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員健康管理室）があります。 ・ハラスメント防止委員会が院内に整備されています。 ・専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育園があります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 43 名在籍しています。 ・当院にて研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会と人材開発室を設置します。また、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：胸部 X 線を読み解く会、熊本消化器カンファレンス、熊本消化器画像診断研究会、済生会熊本病院緩和ケア研修会等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2024 年度開催実績 2 回：受講者 10 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に人材開発室が対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち少なくとも 9 分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 50 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度：4 体、2023 年度：1 体、2024 年度：2 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、オンライン図書などを整備しています。 ・医療倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験事務局を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	一門　和哉 ◆研修の特徴 当院は、熊本県熊本医療圏にあり、救命救急センターを有する急性期病院であり、国際病院機能評価 JCI を取得しています。 重症・救急患者はもちろん、コモンディジーズから複数の病態を持つ患者の診療など幅広く経験を積むことができます。併せて、様々なキャリアや資格を有する指導医が多数在籍しているため、サブスペシャルティ領域まで踏み込んだ専門的な知識・技術も修得することができます。 また、地域における急性期病院であるため、それぞれの役割を担う施設との病病連携や病診連携も多数経験します。 当院では、医師のみならず、各職種が専門性を発揮しながら診療にあたります。内科系・外科系問わず各診療科の垣根も低く、複数の診療科、多職種にて行われるチーム医療は自慢できる特徴の一つです。
指導医数	日本内科学会総合内科専門医 43 名、日本消化器病学会消化器専門医 11 名、日

（常勤医）	本消化器内視鏡学会 10 名、日本循環器学会循環器専門医 20 名、日本腎臓学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 14 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 6 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本肝臓学会専門医 5 名、日本臨床腫瘍学会専門医 3 名ほか
外来・入院患者数	総外来患者数（実数）： 137,362 名　　総入院患者数（実数）： 134,717 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設（CVIT） 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本脈管学会認定研修指定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本腹膜透析医学会認定 CAPD 教育研修機関 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本脳卒中学会　一次脳卒中センター（PSC） 日本脳卒中学会　一次脳卒中センター（PSC）コア施設 日本感染症学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ 日本肝臓学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 日本緩和医療学会 日本臨床細胞学会認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設　など

46. 一般財団法人慈山会医学研究所 付属坪井病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・適切な労務環境が保障されている. ・施設内に研修に必要なインターネットの環境が整備されており，論文検索等も可能である. ・メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設との連携や当院精神科外来受診も可能である. ・ハラスメント委員会が整備されており，医療安全部と密な連携を図っている. ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室が完備されており，出産前後の業務も柔軟に時間短縮及び変更対応が可能である. ・男性女性問わず，育児休暇が取得できる.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が1 名以上在籍している. ・研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理して委員会と連携を図ることができる. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を開催しており，専攻医に受講を義務付けている. ・院内CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えている. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えている.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，呼吸器分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している. ・ご高齢の患者も多く，総合内科診療のノウハウも充実している.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で，計 1 演題以上の学会発表をしている. ・その他，呼吸器学会総会・地方会，リハビリテーション関連の学会等への積極的な参加，発表を行っている.
指導責任者	杉野　圭史
指導医数 （常勤医）	2 名
外来・入院患者数	外来：53,623 名・入院：35,432 名（令和 4 年度実績）
経験できる疾患群	呼吸器疾患全般，特に間質性肺炎．新型コロナ感染症，膠原病リウマチ疾患，消化器疾患，循環器疾患，糖尿病，婦人科疾患，乳腺疾患，緩和を必要とする疾患全般など.
経験できる技術・技能	呼吸管理，重症患者の全身管理，血液ガス，中心静脈挿入，胸腔ドレナージ，胸水穿刺，気管支鏡検査，CT 下肺生検など.
経験できる地域医療・診療連携	当院は郡山市を中心に市外あるいは県外からの間質性肺炎の紹介患者も多く，その他，多種多様な呼吸器疾患の診療や急性期から緩和期までの診療にあたることが可能である．そのため，訪問診療や地域のクリニック，周辺の関連病院との密な連携を行っている.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会，日本呼吸器学会

47. 東北大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·東北大学病院医員（後期研修医）として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生管理室）があります。 ·ハラスメント防止委員会が学内に整備されています。 ·院内に女性医師支援推進室を設置し、女性医師の労働条件や職場環境に関する支援を行っています。 ·近隣に定員 120 名の大規模な院内保育所があり（1991 年 4 月開所）、敷地内にある軽症病児・病後児保育室も利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 116 名在籍しています（下記）。 ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 45 回、感染対策 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·内科系診療科合同のカンファレンス（2025 年度実績 12 回）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 27 回）を定期的に開催しています。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 21 演題）をしています。
指導責任者	青木正志（脳神経内科　科長） 【内科専攻医へのメッセージ】 　東北大学病院は、特定機能病院として、さらには国の定める臨床研究中核病院としてさまざまな難病の治療や新しい治療法の開発に取り組み、高度かつ最先端の医療を実践するために、最新の医療整備を備え、優秀な医療スタッフを揃えた日本を代表する大学病院です。 　地域医療の拠点として、宮城県はもとより、東北、北海道、北関東の広域にわたり協力病院があり、優秀な臨床医が地域医療を支えるとともに、多くの若い医師の指導にあたっています。 　本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また、単に内科医を養成するだけでなく、地域医療における指導的医師、医工学や再生医療などの先進医療に携わる医師、大学院において専門的な学位取得を目指す医師、更には国際社会で活躍する医師等の将来構想を持つ若い医師の支援と育成を目的としています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 43 名、日本内科学会総合内科専門医 87 名、 日本消化器病学会消化器専門医 20 名、日本肝臓学会肝臓専門医 5 名、 日本循環器学会循環器専門医 16 名、日本内分泌学会専門医 11 名、 日本腎臓病学会専門医 11 名、日本糖尿病学会専門医 11 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 20 名、日本血液学会血液専門医 7 名、 日本神経学会神経内科専門医 14 名、日本アレルギー学会専門医（内科）7 名、 日本リウマチ学会専門医 4 名、日本感染症学会専門医 2 名、 日本老年学会老年病専門医 2 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 774 名（内科系・1 日平均）　入院患者 292 名（内科系・1 日平均）

経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設 日本臨床検査医学会認定研修施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 日本アフェレシス学会認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本リウマチ学会教育認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本心療内科学会専門研修施設 日本心身医学会研修診療施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本神経学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本透析医学会認定施設 日本大腸肛門病学会大腸肛門病認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本老年医学会認定施設 日本東洋医学会指定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

48. 徳島大学

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 臨床研修指定病院である。 ・ 施設内に研修に必要なインターネットの環境が整備されている。 ・ 適切な労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設と連携できる。 ・ ハラスメントについては，職員相談室を設置している。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室や更衣室等が配慮されている。 ・ 敷地内外を問わず保育施設等が利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・ 内科指導医が 51 名在籍している。 ・ 研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ることができる。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催しており，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えている。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えている。 ・ CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付けている。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えている。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野全て（総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病及び類縁疾患，感染症，救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしている。
指導責任者	佐田　政隆（循環器内科　科長） 徳島大学病院は，徳島県内外の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っている．本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して，質の高い内科医を育成するものである．また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とする。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 51 名， 日本内科学会総合内科専門医 64 名 ， 日本消化器病学会消化器病専門医 25 名， 日本肝臓学会肝臓専門医 9 名， 日本循環器学会循環器専門医 14 名 ， 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 9 名， 日本糖尿病学会糖尿病専門医 8 名， 日本腎臓学会腎臓専門医 5 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名， 日本血液学会血液専門医 8 名， 日本神経学会神経内科専門医 12 名， 日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名， 日本リウマチ学会リウマチ専門医 3 名 ， 日本感染症学会感染症専門医 2 名， 日本老年医学会老年病専門医 4 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 22 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 10 名　ほか
外来・入院患者数	総外来患者（延数）370,192 人うち内科 113,923 人（1 ヶ月平均 9,494 人）：2021 年度、総入院患者数（延数）203,169 うち内科 60,793 人（1 ヶ月平均 5,066 人）：2021 年度

経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験可能である。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本神経学会専門医制度における教育施設 日本認知症学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本プライマリ・ケア連合学会新・家庭医療専門研修プログラム認定施設 日本ペインクリニック学会ペインクリニック専門医指定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本東洋医学会研修施設 日本老年医学会認定施設　など

49. 上尾中央総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理室）があります。 ・クレーム対策・検討委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地外に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医が 39 名在籍しています。 ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置 されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・下記の各種研修会に対し専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ①ＡＭＧ上尾中央総合病院内科専門研修施設群での合同カンファレンスは、定期的に上尾中央総合病院第一臨床講堂にて開催予定です。 ②地域参加型のカンファレンスは定期的に開催しています。（上尾地区医師会・歯科医師会　合同学術研修会、上尾市循環器研究会、埼玉県中央地区Ｃ型肝炎治療連携セミナー、糖尿病勉強会（埼玉県糖尿病研究会、埼玉糖尿病談話会、埼玉糖尿病トータルケア研究会等)、埼玉県央リウマチ研究会、上尾市認知症ケアネットワークの会、上尾市医療と介護のネットワーク会議、がん治療多職種合同勉強会等） ③医療安全、感染防御に関する講習会は年 2 回開催しており、医療倫理に関する講習会は年 1 回開催しています。 ④ＣＰＣは定期的に年間 15 回程度開催しています。 ⑤JMECC は年１，2 回開催しています。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。・専門研修に必要な内科剖検は平均 20 体（2024 年度実績）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・上尾中央総合病院では学術研究を奨励すると同時に、その研究成果を広く公表し学術論文として残すことの重要性を高く位置付けており、学術研究および学術論文の執筆・投稿における、必要な経費の一部を補助する体制を構築しています。
指導責任者	土屋　昭彦 『高度な医療で愛し愛される病院』という病院理念のもと、将来専門とする領域（subspeciality）にかかわらず、内科学の幅広い知識・技能を修得し、医の倫理・医療安全に配慮した患者中心の医療を実践する内科医を育成する研修プログラムとなっています。当プログラムを履修することにより、内科専門医に必要な内科領域全般の標準的な臨床能力のみならずプロフェッショナリズムとリサーチマインドを修得し、研修修了後も生涯にわたり自己研鑽を積んでいけるものと期待しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　39 名，日本内科学会総合内科専門医　27 名， 日本消化器病学会専門医　5 名，日本肝臓学会専門医　4 名， 日本循環器学会専門医　9 名，日本内分泌学会専門医　0 名， 日本糖尿病学会専門医　4 名，日本腎臓病学会専門医　3 名， 日本呼吸器学会専門医　2 名，日本血液学会専門医　2 名， 日本神経学会専門医　3 名，日本アレルギー学会専門医　1 名， 日本リウマチ学会専門医　0 名，日本感染症学会専門医　1 名， 日本老年医学会専門医　0 名，ほか.
外来・入院患者数	2024 年度実績　外来患者　262,445 名、入院患者　25,661 名
経験できる疾患群	・きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。

経験できる技術・技能	・技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 ・当院は埼玉県がん診療連携拠点病院であり，がんの診断，抗がん剤治療，緩和ケア治療，放射線　治療，内視鏡検査・治療など，幅広いがん診療を経験できます。 ・年間救急車搬入台数 約8,000件、独歩患者数 2 万人弱という受け入れ実績を有する ER をもち、埼玉県県央医療圏を越える広域から救急患者が訪れる救急医療の中核病院として、的確な診断・初期治療、専門医へのコンサルテーションや内科系疾患に限らず外　傷の緊急度・重症度判断、軽症外傷の処置などを経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	・当院は埼玉県県央医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域医療支援病院の指定を受けた地域の病診・病病連携の中核病院です。一方で地域に根ざす第一線の病院でもあり、　コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療　経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）と　の病診連携も経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設　日本肝臓学会認定施設 日本感染症学会研修施設　日本集中治療医学会専門医研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本脳卒中学会研修教育病院　日本緩和医療学会認定研修施設認定 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士認定規則実地修練認定教育施設 JCNT 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設認定 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動暫定研修施設（補完研修施設）日本胆道学会認定指導医制度指導施設　日本動脈硬化学会専門医制度教育病院 日本透析医学会専門医制度認定施設　日本腎臓学会研修施設 日本アフェレシス学会認定施設　日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本病理学会 研修認定施設認定 日本呼吸器学会認定施設認定 経カテーテル的大動脈弁置換術関連学会協議会 経カテーテル的大動脈弁置換術 実施施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 腹部ステントグラフト実施施設　胸部ステントグラフト実施施設 日本脈管学会認定研修関連施設　日本消化管学会胃腸科指導施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本輸血・細胞治療学会 I&A 制度認定施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設　日本老年医学会認定施設

50. 山梨大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・山梨大学医学部附属病院医員として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ・ハラスメント委員会が山梨大学に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 58 名在籍しています（下記）. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 医療倫理 1 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンス（2024 年度実績 2 回）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 13 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（2024 年度実績 2 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 58 名，日本内科学会総合内科専門医 37 名 日本消化器病学会消化器専門医 21 名，日本内分泌学会専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 10 名，日本糖尿病学会専門医 4 名， 日本腎臓病学会専門医 7 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名， 日本血液学会血液専門医 8 名，日本神経学会神経内科専門医 3 名， 日本血液学会血液指導医 6 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 28,677 名（1 ヶ月平均）入院患者 15,069 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診･病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本動脈硬化学会認定専門医認定教育施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設

	日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門施設 日本老年医学会認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本血液学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本認知症学会専門医教育施設

51. 総合病院国保旭中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・法人職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員健康相談センター）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、女性医師専用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が 28 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績　医療倫理 7 回、医療安全 9 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 16 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち全疾患群（少なくても 60 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 61 体、2023 年度実績 51 体、2022 年度実績 57 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 6 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2024 年度実績 10 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 13 演題）をしています。
指導責任者	塩尻　俊明 【内科専攻医へのメッセージ】 ・旭中央病院は、千葉県東部の中心的な基幹病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であり、高度先進医療だけでなく地域に根ざした最前線病院です。 ・高度先進医療や難解な症例を担い、大学病院と同等の機能を有しています。地域がん診療連携拠点病院であり、また緩和ケア病棟を有していることから、高度先進医療を含めたがん患者への全人的医療を地域に提供しています。救命救急センターでは、年間約 42,000 人の患者が来院し、24 時間体制で一次から三次救急まですべての救急患者を受け入れています。内科病床数 310 床で年間約 9,000 人を越える内科入院患者を誇ります。臨牀と病理の照合、結びつきを重視しており、内科の年間の剖検数は、2024 年度は 61 体に及び、毎月 CPC が開催されています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 28 名、日本内科学会総合内科専門医 24 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、 日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 1 名、 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、 日本リウマチ学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、

	日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医 2 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 48,276 名（1 ヶ月平均）　入院患者 1,658 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	J-Osler の疾患群項目表にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	J-Osler にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本神経学会認定准教育施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

52. 独立行政法人労働者健康安全 横浜労災病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・労働者健康安全機構嘱託職員として労務環境が保障されています. ・メンタルヘルスに適切に対処する部署（総務課)、産業医がおります. ・ハラスメントについては、相談員（男女各１名）を置き、職員の相談に対応しており、必要に応じに職員相談委員会を開催する体制が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室を整備しています. ・敷地内に院内保育所を整備しています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 26 名在籍しています. ·医師臨床研修管理委員会を設置し，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医にも受講を義務付けます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており，専攻医に特定数以上の受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・JMECC を毎年院内で開催しています.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会のほか、内科系各分野の学会での学会発表を行っており、日本内科学会での発表７、内科系学会での発表は 45 にのぼります。論文発表も英文誌を含めて行っています。専攻医には年 1 回以上の学会発表をするよう指導しており、論文発表の指導も行っています。
指導責任者	責任医師名　永瀬　肇 【内科専攻医へのメッセージ】　横浜労災病院は独立行政法人労働者健康安全機構が設置、運営する病院であり、労災疾病の診療、研究を行うとともに、横浜市北東部中核医療施設として救急診療、高度医療、がん診療、小児医療、産科医療における大きな役割を担っています。内科系のすべての領域において初診から診断、治療に至るまでの高い専門性を有する診療が行われており、また安全、倫理、感染、内科救急などの研修機会も整っています。そして、内科専門研修のために何よりも重要なことは、より多くの症例を優れた指導体制の下に経験することであり、当院は専攻医が充実した専門研修ができる環境を用意しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 26 名、日本内科学会総合内科専門医 28 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名、日本内分泌学会内分泌学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本透析学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医４名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医５名、日本リウマチ学会リウマチ専門医３名、日本血液学会認定血液専門医３名、日本消化器内視鏡学会専門医 7 名、日本肝臓学会専門医 3 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名、日本心療内科学会合同心療内科専門医 3 名、日本膵臓学会専門医１名、日本胆道学会専門医１名、ほか
外来・入院患者数	新外来患者数は病院全体で年間 56,960 人、内科系で 11,960 人です。新入院患者数は病院全体で年間 18,430 人、内科系で 6,630 人です。
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例をすべて経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療のみならず、慢性期医療を経験できる連携施設、また、都市部以外の地域医療を経験できる連携施設、当院と病診・病病連携を行っている連携施設での研修も経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設 日本高血圧学会専門医認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本リウマチ学会教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医認定教育施設（呼吸器内科） 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設　など

53. 坂出市立病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するため、基幹施設である高松赤十字病院と連携しています。 ・基幹施設である高松赤十字病院のハラスメント相談員に相談が出来ます。坂出市はセクシャル・ハラスメント防止等に関する規程が制定されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室等が整備されています。 ・連携施設での研修中においても高松赤十字病院の院内保育所の利用可能で、体調不良児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 9 名在籍しています（下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・専攻医に受講が必要とされる講習会の参加を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，代謝，腎臓，呼吸器，血液，アレルギー，膠原病及び類縁疾患、感染症及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	松岡　亮仁
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　9 名 日本内科学会総合内科専門医　8 名 日本肝臓病学会専門医 1 名 日本循環器学会専門医 2 名 日本内分泌学会専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本呼吸器学会専門医 1 名 日本血液学会専門医 2 名 日本アレルギー学会専門医 1 名 日本感染症学会専門医 1 名　　ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 のべ 63,958 名　内科入院患者のべ 32,963 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 11 領域，57 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本血液学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定施設

	日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設　　など

54. 大分大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当）があります. ·ハラスメント委員会が当センター内に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に託児所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 33 名在籍しています. ·内科専門研修プログラム管理委員会によって，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修管理委員会を設置しています. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（年度間実績８回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（２０２４年度開催実績各９回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に卒後臨床研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	専攻医 3 年修了時で、「研修手帳（疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できる体制とします。そして可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催（年度間実績 12 回）しています. ·治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（年度実績 12 回）しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（年度間実績 4 演題）をしています.
指導責任者	髙橋　尚彦 【内科専攻医へのメッセージ】 大分大学医学部附属病院は、安全で安心できる医療の提供、高度医療人の育成、医療の未来を切り開く研究を一体的に推進する全国に設置された 42 の国立大学医学部附属病院の一つです。高度先進医療を提供する特定機能病院であると同時に、大分県内唯一の研究教育機関として、次世代を担う優れた医療人材の育成や新たな医療技術・治療法の開発に取り組んでいます。「患者本位の最良の医療」をすべての患者様に提供するという基本理念のもと、医師をはじめとしたスタッフは、日々研鑽を重ね、高度医療、低侵襲医療、地域医療、災害医療への貢献を果たしています。地域の皆様に最も信頼される病院となり、その信頼が職員一同の誇りとなるよう、努力を続けています。多くの若い医師が、本院の内科専攻医プログラムに参加してくれることを期待しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会専門研修指導医 33 名,日本消化器病学会消化器病専門医 20 名, 日本循環器学会循環器専門医 20 名,日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 9 名, 日本腎臓学会腎臓専門医 7 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 12 名, 日本血液学会血液専門医 6 名，日本神経学会神経内科専門医 8 名, 日本リウマチ学会リウマチ専門医 7 名，日本糖尿病学会糖尿病専門医 8 名, 日本肝臓学会肝臓専門医 7 名　等

外来・入院患者数	外来患者数 83088 人/年、入院患者数　3907 人/年
経験できる疾患群	「研修手帳（疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験することができます。
経験できる技術・技能	専門医の到達目標に掲げられた必要な技術・技能を経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育施設・准教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設・準教育施設 日本救急医学会救急科専門医指導医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本感染症学会研修施設　など

55. 山口宇部医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ･図書室とインターネット環境があります。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・院内に保育所が設置されています。 ･ハラスメント委員会が当センター内に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･内科指導医は 5 名在籍しています。 ･内科専門研修員会を設置しています。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期開催（年２回ずつ）しています。 ･CPC を開催（年度間実績１回）しています。 ・研修施設群合同カンファレンス・地域参加型カンファレンスに定期的に参加しています。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	･専門研修可能な内科領域は、総合内科ＩＩＩ（Ⅰ、Ⅱ）、呼吸器科になります。 ･剖検数（２０２４年度実績０体、２０２３年実績１体、２０２２年実績２体）行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･日本内科学会演題の登録実績が多数あります。 ･内科系学会演題登録実績が多数あります。
指導責任者	近森　研一 【内科専攻医へのメッセージ】 　山口宇部医療センターは、美しい景観と木々の緑に囲まれた自然豊かで快適な療養環境です。 「がん、呼吸器疾患、重症心身障害児」の診療を三つの柱とし、がん診療では、肺がん領域の「特定領域県がん診療連携推進病院」の指定を受けています。また、緩和ケア病棟を設置し、がんの分野で専門的医療を行なっています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名、 日本内科学会総合内科専門医 5 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本呼吸器学会指導医 3 名、 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医 3 名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 4 名 日本臨床腫瘍学会指導医 3 名、 ほか
外来・入院患者数	外来患者 2,257 名（1 ヶ月平均延数）2024 年 4 月～2025 年 3 月 入院患者 7,686 名（1 ヶ月平均延数）2024 年 4 月～2025 年 3 月
経験できる疾患群	呼吸器、総合内科 III（腫瘍）を中心として全分野の経験ができます。 特に、悪性腫瘍には多くの合併症や主要臓器転移を伴い、がん薬物療法有害事象はほぼ全領域の内科専門分野に関わるため、症例を通じて幅広く経験できます。
経験できる技術・技能	呼吸器および総合内科 III（腫瘍）を中心として診療に必要な技術・技能を経験できます。呼吸器と悪性腫瘍は総合内科 I（一般）、II（高齢者）とも重なるためこれらについても経験できます。 具体的に経験できる技術・技能として頻度の高いものは次のものです。 呼吸器専門的身体診察、胸部画像診断法、胸腔穿刺、呼吸機能検査法、呼吸器薬物療法、酸素療法、気管内挿管、人工呼吸療法、放射線療法、呼吸器リハビリテーション、気管支動脈塞栓術、気管支内視鏡、気管支内視鏡的治療法、がん告知と告知後のケア、緩和医療と終末期医療、オンコロジエマージェンシ

	一、がんの薬物療法　など
経験できる地域医療・診療連携	呼吸器および悪性腫瘍は高齢者中心の医療であり、急性期医療だけでなく、医療・病診・病連携などを経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設 日本がん治療認定医機構がん治療認定医制度認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設） 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本放射線腫瘍学会認定施設

56. 聖マリアンナ医科大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネットの環境があります。 ・聖マリアンナ医科大学病院の専攻医として労務環境が保証されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・近傍に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 113 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域および多職種参加型の 9 内科合同カンファレンスを定期的に参画し、common disease や様々な症例を学ぶ機会を設けています。 ・CPC を定期的に開催し､内科・病理との幅広いディスカッションに参加する機会が設けられています。 ・JMECC を主催しており、優先的に専攻医が受講することができます。 ・特別連携施設での研修では、電話やインターネットを使用して指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に症例を経験することができます。 ・70 疾患群のほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 18 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ・治験管理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会又は同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	研修委員長　出雲昌樹 【内科専攻医へのメッセージ】 東京と隣接した地域に位置する、地域密着型特定機能病院です。2022 年 12 月末に新病院が竣工しました。年間 6000 台以上の救急車の応需があり、三次急までの様々な救急疾患を経験することができます。
指導医数 （常勤医）	・日本内科学会内科指導医が 113 名常勤在中しています。 （総合診療内科 4 名、呼吸器内科 9 名、循環器内科 24 名、消化器内科 12 名、腎臓・高血圧内科 12 名、代謝・内分泌内科 8 名、脳神経内科 15 名、血液・腫瘍内科 8 名、リウマチ・膠原病・アレルギー内科 9 名、腫瘍内科 8 名、緩和ケア科 1 名、救急医学 1 名、感染症学 1 名、臨床検査医学 1 名）
外来・入院患者数	外来患者 223，127 名（内科外来患者延数）(2024 年度実績) 入院患者　134，326 名（内科入院患者延数）(2024 年度実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本医学放射線学会放射線科専門医制度修練機関（画像診断・IVR 部門、核医学部門、放射線治療部門)、日本救急医学会救急科専門医・指導医指定施設、日本麻酔科学会日本病理学会病理専門医制度

	研修認定施設Ａ、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本核医学会専門医教育病院、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設、日本ｱﾚﾙｷﾞｰ学会認定教育施設（小児科/ 皮膚科/ ﾘｳﾏﾁ・膠原病・ｱﾚﾙｷﾞｰ内科）、日本呼吸器学会認定施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本ﾘｳﾏﾁ学会教育施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本ペインクリニック学会指定研修施設、日本臨床薬理学会専門医制度研修施設、日本老年医学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本脈管学会認定研修施設、日本大腸肛門病学会認定施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設、日本放射線腫瘍学会認定施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設、日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院、日本集中治療医学会専門医研修施設、日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼働施設認定、日本感染症学会研修施設認定、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本老年精神医学会専門医制度認定施設、日本緩和医療学会 認定研修施設、日本東洋医学会指定研修施設、日本心臓ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学会認定研修施設、日本カプセル内視鏡学会指導施設、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設証、日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部・腹部ステントグラフト実施施設、日本遺伝カウンセリング学会臨床遺伝専門医制度研修施設、日本脳神経血管内治療学会 研修施設、日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本てんかん学会認定研修施設　　ほか

57. 横浜市立大学附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 横浜市立大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が横浜市立大学に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	指導医が 79 名在籍しています（下記)。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績　医療倫理 3 回、医療安全 129 回、感染対策 32 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 19 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2024 年度実績 1 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績　16 演題）をしています。
指導責任者	前田愼 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜市立大学は 2 つの附属病院を有し、神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 79 名、日本内科学会総合内科専門医 51 名 日本消化器病学会消化器専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名、 日本内分泌学会専門医 7 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、 日本腎臓病学会専門医 5 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、 日本血液学会血液専門医 6 名、日本神経学会神経内科専門医 10 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、 日本感染症学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 5 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者　11,655 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　4,545 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育病院

（内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

58. 国際医療福祉大学 成田病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネットの環境があります. ·国際医療福祉大学成田病院専攻医として労務環境が保障されています。 ·安全衛生委員会がメンタルストレスに適切に対処します。 ·ハラスメント防止委員会が院内に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 40 名在籍しています（下記)。 ·後期研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、プログラム管理委員会が連携施設群との連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンス（予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2024 年度 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 12 分野のうち、全分野（消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	脳神経内科部長 村井弘之 【内科専攻医へのメッセージ】 優れた医師になるためには、臨床的にも優れ、さらに教育的な指導者につき、レベルの高い仲間と切磋琢磨し、多くの症例を経験することであると思います。また、国際医療福祉大学成田病院は 2020 年 3 月開院の新しい病院のため、これからの当院の内科分野を構築していく一人にもなれます。その目的は、全ての医師に求められる幅広い基本的な臨床能力（知識・技術・態度・情報収集力・総合判断能力）を身につけることとしています。そのような人材を育成するため、国際医療福祉大学成田病院　内科では、「内科コース」を中心とした３年間のスケジュールからなる専攻医プログラムを提供しています。この研修期間で内科学の領域全般で専門性が高い、臨床経験豊富な内科指導医のもと、患者様中心の医療を通して、社会人としての常識・モラルを持った、才能豊かな内科専門医となることを目的としています。各内科診療をさらに極めるため、千葉県内の連携病院とのプログラムを構築し、全てのプログラムにおいて連携施設での研修期間を設けています。連携施設に関しては、国際医療福祉大学関連施設だけでなく、これからも千葉県内の施設との連携を構築していく予定です。また、地域医療を経験するためのプログラムも準備しています。さらに、将来の希望に合わせた「各科重点コース」も用意しています。充実した各科教育スタッフの指導により、幅広い総合内科的視点を基盤とした、優秀な内科専門医の育成ができると考えています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 40 名、日本内科学会総合内科専門医 32 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液

	専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 3 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 9452 名（内科 1 ヶ月平均）　入院患者 382 名（内科 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 日本胆道学会認定指導施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 ほか

59. 亀田総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境 ・メンタルストレスに適切に対処するセルフケアサポートセンター ・悩みの相談をはじめ精神的なケアに専従するチャプレンや臨床心理士が常勤 ・ハラスメント委員会の整備 ・女性専攻医も安心して勤務できるように、男女別の更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室を整備 ・敷地に隣接した保育所および病児保育施設 ・病院併設の体育館・トレーニングジム ・その他、クラブ活動、サーフィン大会など
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・常にメールなどを通じて指導医、研修センターと連絡ができる環境。 ・連携施設での研修中であっても指導医と面談しプログラムの進捗状況の報告や相談をすることができるようウェブ会議ができる環境。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群(経験すべき病態等を含む)に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告を記載します。 これらを通じて、遭遇することが稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	①内科系学術集会や企画に年 2 回以上参加する(必須)。※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会 CPC および内科系 subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨する。 ②経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。 ③クリニカルクエスチョンを見出し臨床研究を行う。 ④内科学会に通じる基礎研究を行う。 以上を通じて、化学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。 専攻医は学会発表あるいは論文発表を、筆頭者として 2 件以上行います。なお、専攻医が、社会人大学院など希望する場合でも、亀田総合病院内科専門医研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。
指導責任者	中路　聡 【内科専攻医へのメッセージ】 亀田総合病院では、高いレベルで幅広く総合的な内科診療能力を習得するための研修プログラムを準備しています。 これから内科専門医研修を開始するみなさんは、一人ひとりバックグラウンドが違います。また、将来のビジョンも異なります。わたしたちには研修病院として長年の実績があります。みなさんのニーズやスタイルに合わせ、かつ効率よく最短でプログラムを終了するための研修を提供いたします。 「自由と責任」、「権利と義務」のもと、形式的ではないアウトカムを重視した内科医として研修を行ってみませんか？内科専門医研修を開始するみなさん、ぜひ亀田総合病院で一緒に働きましょう！
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　3 名，日本内科学会総合内科専門医　22 名， 日本消化器病学会専門医　6 名，日本胆道学会専門医　3 名， 日本消化器内視鏡学会　6 名、日本循環器学会専門医　7 名， 日本内分泌学会専門医　4 名，日本腎臓病学会専門医　5 名， 日本呼吸器学会専門医　4 名，日本血液学会専門医　2 名， 日本神経学会専門医　8 名，日本リウマチ学会専門医　1 名， 日本感染症学会専門医 4 名ほか
外来・入院患者数	2023 年度実績　外来患者　72,460 名　/　入院患者　21,556 名
経験できる疾患群	全 70 疾患群、200 症例以上を経験することを目標とします。内科領域研修を幅

	広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性がありますので、内科専門医に求められる知識・技能・態度修練プロセスを専門研修(専攻医)年限ごとに設定している。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳参照。幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに化学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。
経験できる地域医療・診療連携	病病・病診連携の両方での立場での研修を通じ、地域医療を幅広く多面的に学ぶことができます。
学会認定施設 （内科系）	・日本内科学会認定医制度における教育病院 ・日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ ・日本内分泌学会認定教育施設 ・日本血液学会認定血液研修施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・日本腎臓学会研修施設 ・日本急性血液浄化学会認定指定施設 ・日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 ・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設 ・日本アレルギー学会アレルギー専門医教育施設 ・日本消化器内視鏡学会指導施設 ・日本消化器病学会認定施設 ・日本胆道学会認定指導医制度指導施設認定 ・日本不整脈・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 ・日本リウマチ学会教育施設　など

60. 長野赤十字病院

1)専攻医の環境 【整備基準 23】	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・長野赤十字病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境 【整備基準 23】	・指導医は 36 名在籍しています。 ・施設内において研修する専攻医の研修を管理する、研修委員会と臨床研修センターが設置されています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：内科カンファレンス、病診連携循環器勉強会、長野市医師会循環器疾患研究会、糖尿病公開勉強会、呼吸器疾患勉強会、医学教育研究会、北信がん診療・緩和ケア事例検討会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・特別連携施設（川西赤十字病院）の専門研修では、電話や週 1 回の長野赤十字病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
3)診療経験の環境 【整備基準 23】	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
4)学術活動の環境 【整備基準 23】	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	副院長　小林　衛
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 36 名、日本内科学会総合内科専門医 36 名、日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 7 名、神経学会専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 4 名、日本肝臓学会専門医 4 名、日本内分泌学会内分泌代謝専門医 1 名、日本脳卒中学会専門医 1 名、ほか
外来･入院患者数	延べ外来患者数 27,416 名（1 ヶ月平均）延べ入院患者数 17,509 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療･診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本神経学会教育関連施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本感染症学会連携研修施設、日本不整脈学会･日本心電図学会認定不整脈専門医研修施設　など

3)専門研修特別連携施設

浦河赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・研修に必要な医局図書室とインターネット環境があります。 ・浦河赤十字病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります。 ・ハラスメント委員会（職員暴言・暴力担当窓口）が浦河赤十字病院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し ています。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科，消化器，呼吸器，および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	
指導責任者	松浦　喜徳 【内科専攻医へのメッセージ】 浦河赤十字病院は北海道の日高東部あり、昭和 14 年の創立以来、地域医療に携わる管内唯一の総合病院として地域センター病院、災害拠点病院、へき地医療拠点病院の指定を受け、人工透析、在宅医療、健診医療と「医療・保健・福祉」のバランスを取りながら過疎地域の医療を担っている病院です。理念は「浦河赤十字病院は、地域の人々が生涯を通して健やかに安心して暮らせる社会の形成に貢献することを目指します」 1.私たちは生命尊重と人間愛に基づき人と人、心と心のふれあう病院を目指します。 2.患者さんの安心・納得・安全を心がけ、信頼される医療サービスを提供いたします。 3.地域の保健・医療・福祉との連携を深め、その中核病院としての責任を果たします。外来では地域の病院として、内科一般および専門外来の充実に努めています。医療療養病床としては、①急性期後の慢性期・長期療養患者診療、②慢性期患者　の在宅医療（自宅・施設）復帰支援を行う一方、③外来からの急性疾患患者の入　院治療・在宅復帰、④在宅患者（自院の在宅患者および連携医療機関の在宅患者）の入院治療・在宅復帰に力を注いでいます。病棟・外来・併設訪　問看護ステーションとの連携のもとに実施しています。　病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない、各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性、在宅療養の準備を進　め、外来・在宅担当医師・スタッフへとつないでいます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医　1 名
外来・入院患者数	外来患者 304 名（1 日平均）　入院患者 104 名（1 日平均）
病床	146 床〈 医療療養病床 51 床・一般病床 91 床・感染病床 4 床〉
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患

	群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけではなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	

日本赤十字社医療センター内科専門研修プログラム

研修プログラム管理委員会・研修委員会

（2026 年 5 月 20 日現在　一部改訂あり）

日本赤十字社医療センター

研修プログラム管理委員会

小島敏弥（プログラム統括責任者，循環器分野責任者，循環器内科部長）
出雲雄大（副プログラム統括責任者，呼吸器分野責任者，呼吸器内科部長）
高屋和彦（内分泌・代謝分野責任者，副院長，糖尿病内分泌科部長）
塚田信弘（血液分野責任者，血液内科部長）
國頭英夫（化学療法科部長）
橋田秀司（神経分野責任者，神経内科部長）
石橋由孝（腎臓分野責任者，腎臓内科部長）
吉田英雄（消化器分野責任者，消化器内科部長）

研修委員会（上記の下部組織）

谷口博順（研修委員会委員長）、小島敏弥、出雲雄大、高屋和彦、塚田信弘、國頭英夫、橋田秀司、石橋由孝、吉田英雄、鈴木毅（アレルギー・膠原病分野責任者，膠原病・アレルギー内科科部長）
上田晃弘（感染症分野責任者，感染症科部長）

研修委員会事務局

志水早苗（教育研修推進室事務担当）

連携施設研修委員長

国家公務員共済連合会 三宿病院　　増岡　和宏
JR 東京総合病院　　岡本　真
がん研究会有明病院　　高野　利実
東京大学医科学研究所附属病院　　四柳　宏
東京品川病院（旧 東芝病院）　　中野　吉英
三井記念病院　　三瀬　直文
大森赤十字病院　　北里　博仁
東京逓信病院　　椎尾　康
公立学校共済組合 関東中央病院　　伊藤　敦彦
北見赤十字病院　　永嶋　貴博
相模原赤十字病院　　高佐　顕之
独立行政法人 地域医療機能推進機構 仙台病院　　渡邉　崇
東京大学医学部附属病院　　泉谷　昌志
杏林大学医学部付属病院　　福岡　利仁

独立行政法人労働者健康安全機構　関東労災病院　　丹羽　一貴
国立研究開発法人　国立がん研究センター中央病院　　堀之内　秀仁
国立研究開発法人　国立がん研究センター東病院　　内藤　陽一
神奈川県立循環器呼吸器病センター　　萩原　恵里
東京医科大学病院　　岩田　英里
独立行政法人 地域医療機能推進機構 東京新宿メディカルセンター　　清水　秀文
さいたま赤十字病院　　甲嶋　洋平
千葉大学医学部附属病院　　岩花　東吾
船橋市立医療センター　　岩岡　秀明
東邦大学医療センター大森病院　　五十嵐　良典
株式会社麻生　飯塚病院　　井村　浩
静岡県立静岡がんセンター　　小野　裕之
虎の門病院分院　　鈴木　文孝
横浜市立みなと赤十字病院　　萩山　裕之
茨城県立中央病院　　鏑木　孝之
医療法人徳洲会　沖永良部徳洲会病院　　藤崎　秀明
順天堂大学医学部附属順天堂医院　　小林　敬
松山赤十字病院　　藤﨑　智明
秦野赤十字病院　　田中　克明
独立行政法人 国立病院機構 相模原病院　　上出　庸介
鶴岡市立荘内病院　　安宅　謙
帝京大学ちば総合医療センター　　寺脇　博之
総合病院浦河赤十字病院　　松浦　喜徳
JCHO 東京山手メディカルセンター　　笠井　昭吾
同愛記念病院　　手島　陽
岩手医科大学附属病院　　伊藤　薫樹
東北医科薬科大学病院　　佐藤　賢一
自治医科大学附属さいたま医療センター　　山口　泰弘
東京ベイ・浦安市川医療センター　　平岡　栄治
埼玉県済生会加須病院（旧：埼玉県済生会栗橋病院）雨宮　伸幸
国立病院機構茨城東病院　　石井　幸雄
済生会熊本病院　　一門　和哉
一般財団法人慈山会医学研究所　付属坪井病院　　杉野　圭史
東北大学病院　　青木　正志
徳島大学病院　　佐田　政隆
上尾中央総合病院　　土屋　昭彦
山梨大学医学部附属病院　　土屋　恭一郎
総合病院国保旭中央病院　　塩尻　俊明
横浜労災病院　　永瀬　肇
坂出市立病院　　松岡　亮仁
大分大学医学部附属病院　　近藤　秀和

山口宇部医療センター　近森　研一
聖マリアンナ医科大学病院　出雲　昌樹
横浜市立大学附属病院　　稲森　正彦
国際医療福祉大学　成田病院　　内山　清貴
亀田総合病院　　中路　聡
長野赤十字病院　小林 光-

オブザーバー

内科専攻医代表１　　未定
内科専攻医代表２　　未定

日本赤十字社医療センター内科領域専門研修プログラム
2017年2月16日　Ver.1.0
2017年6月20日　Ver.1.1
2018年3月15日　Ver.2.0
2018年9月10日　Ver.2.1
2019年2月28日　Ver.3.0
2020年4月13日　Ver.4.0
2021年4月 9日　Ver.5.0
2022年5月27日　Ver.6.0
2023年5月15日　Ver.7.0
2024年5月15日　Ver.8.0
2025年4月21日　Ver.9.0
2025年6月12日　Ver.9.1
2026年5月20日　Ver.9.2

別　表

（2026年5月20日改訂）

別表 1. 各年次到達目標

内科専門研修 修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」）一覧表

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 （外来は最大12）	56 疾患群 （任意選択含む）	29 （外来は最大7）

補足

1. 目標設定と修了要件

   以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

	症例	疾患群	病歴要約
目標（研修終了時）	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

2. 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
3. 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
4. 各領域について
   ① 総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から1例ずつ計2例提出する。
   ② 消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
   ③ 内分泌と代謝：それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
   例）「内分泌」2例＋「代謝」1例、「内分泌」1例＋「代謝」2例
5. 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を上限とする。

別表 2. 日本赤十字社医療センター内科専門研修週間スケジュール（例）
（詳細は各診療科で異なる）

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th><th>土・日曜日</th></tr>
<tr><td rowspan="2">午前</td><td>各診療科外来*</td><td>各診療科カンファレンス</td><td>各診療科外来*</td><td>各診療科外来*</td><td>文献抄読会
内科外来（総合内科含む）</td><td rowspan="4">担当患者の病態に応じた診療，救急当直，オンコール，講習会/学会参加など</td></tr>
<tr><td colspan="5">入院患者診療など</td></tr>
<tr><td rowspan="2">午後</td><td colspan="5">入院患者診療，各診療科の救急対応・検査など</td></tr>
<tr><td colspan="5">担当患者の病態に応じた診療，救急当直，オンコール，講習会/学会参加など</td></tr>
</table>

上記はあくまでも一例の概略．地域参加型カンファレンス，講習会，CPC，学会などは各々の開催日に参加する。* Subspecialty 重点コースでは subspecialty 外来を含む.

日本赤十字社医療センター内科領域専門研修プログラム　別表
2017 年 2 月 16 日 Ver. 1.0
2018 年 3 月 15 日 Ver. 1.1
2021 年 4 月 12 日 Ver. 1.2
2022 年 5 月 31 日 Ver. 1.3
2023 年 5 月 15 日 Ver. 1.4
2024 年 5 月 15 日 Ver. 1.5
2025 年 4 月 21 日 Ver. 2.1
2026 年 5 月 20 日 Ver. 2.2

日本赤十字社医療センター内科専門研修プログラム

専攻医研修マニュアル

（2026 年 5 月 20 日改訂）

1)専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科領域の専門医の使命は，１）高い倫理観を持ち，２）最新の標準的医療を実践し，３）安全な医療を心がけ，４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．内科専門医のかかわる場は多岐にわたりますが，それぞれの場に応じて，

1）地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）

2）内科系救急医療の専門医

3）病院での総合内科（generality）の専門医

4）総合内科的視点を持った subspecialist

に合致した役割を果たし，国民の信頼を獲得します．ただし，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることもあります．いずれにしても内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と general なマインドが重要です．

本研修プログラムは，研修終了後にこれらの使命と役割を担える医師の育成をすること目指します．また，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも，不安なく内科診療にあたる実力を獲得させることも目指します．Subspecialty 重点コースでは将来的な subspecialist となることを見据えた研修も可能で，さらには，高度・先進的医療を行う施設やリサーチにマインドをさらに掘り下げることのできる連携施設での研修も考慮されます．

本研修プログラム終了後には，日本赤十字社医療センターだけでなく，専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務，希望する大学院などで研究者となることも可能です（ただし，それぞれの施設の採用状況などによります）．

2) 専門研修の期間

専門研修（専攻医）3 年の間，基幹施設である日本赤十字社医療センター内科で合計 2 年間，連携施設・特別連携施設で合計 1 年間の専門研修を行います。地域枠においては当センター内科で 1.5 年、特別連携施設で 1.5 年となります。

3) 研修施設群の各施設名（日本赤十字社医療センター 内科専門研修プログラム p.14「日本赤十字社医療センター内科専門研修施設群」参照）

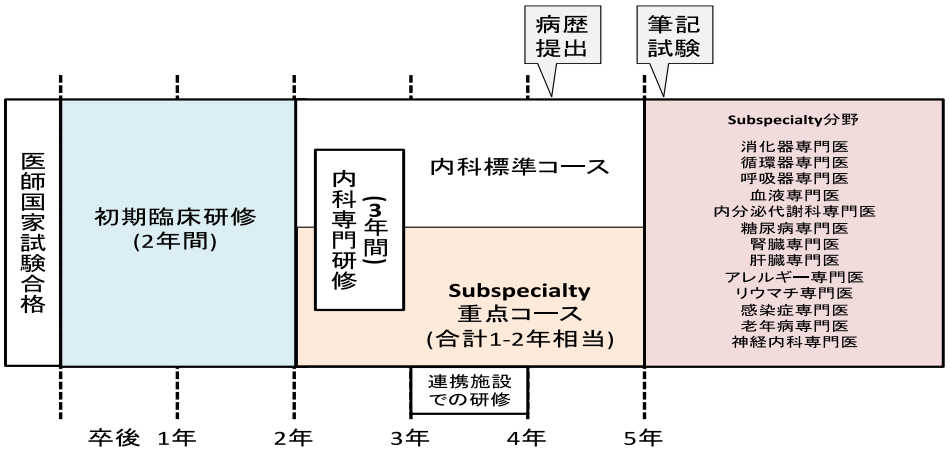
基幹施設：　日本赤十字社医療センター

連携施設：

国家公務員共済連合会 三宿病院
JR 東京総合病院
がん研究会有明病院
東京大学医科学研究所附属病院
東京品川病院（旧 東芝病院）
三井記念病院
大森赤十字病院
東京逓信病院
公立学校共済組合 関東中央病院
北見赤十字病院
相模原赤十字病院
独立行政法人 地域医療機能推進機構 仙台病院
東京大学医学部附属病院
杏林大学医学部付属病院
独立行政法人労働者健康安全機構　関東労災病院
国立研究開発法人　国立がん研究センター中央病院
国立研究開発法人　国立がん研究センター東病院
神奈川県立循環器呼吸器病センター
東京医科大学病院
独立行政法人 地域医療機能推進機構 東京新宿メディカルセンター
さいたま赤十字病院
千葉大学医学部附属病院
船橋市立医療センター
東邦大学医療センター大森病院
株式会社麻生　飯塚病院
静岡県立静岡がんセンター
虎の門病院分院
横浜市立みなと赤十字病院
茨城県立中央病院
医療法人徳洲会　沖永良部徳洲会病院
順天堂大学医学部附属順天堂医院
松山赤十字病院
秦野赤十字病院
独立行政法人 国立病院機構 相模原病院
鶴岡市立荘内病院
帝京大学ちば総合医療センター
JCHO 東京山手メディカルセンター
同愛記念病院
岩手医科大学附属病院
自治医科大学附属さいたま医療センター

東京ベイ・浦安市川医療センター
埼玉県済生会加須病院
国立病院機構茨城東病院
済生会熊本病院
一般財団法人慈山会医学研究所　付属坪井病院
東北大学病院
徳島大学病院
上尾中央総合病院
山梨大学医学部附属病院
総合病院国保旭中央病院
横浜労災病院
坂出市立病院
山口宇部医療センター
大分大学病院
聖マリアンナ医科大学病院
横浜市立大学附属病院
国際医療福祉大学　成田病院
亀田総合病院
長野赤十字病院

特別連携施設：
浦河赤十字病院



＊ 通常枠は 1 年間、連携枠は 1.5 年間連携施設での研修を行う。

4) プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名

本研修プログラム管理委員会・研修委員会と委員名

（**日本赤十字社医療センター　内科専門研修プログラム** p. 139「研修プログラム管理委員会・研修委員会」参照）

指導医名

高屋和彦、江川絵里香、塚田信弘、石田禎夫、阿部有、菊池拓、佐藤広太、武井智美、鈴木毅、白井晴巳、出雲雄大、粟野暢康、猪俣稔、坂本慶太、小島敏弥、魚住博記、瀧澤雅隆、山本渓介、吉田英雄、山本信三、鈴木裕史、谷口博順、内野康志、中田史子、堀内惠美子、安田勉、石橋由孝、衣笠哲史、栁麻衣、上田晃弘、馬渡桃子、宮本信吾（順不同）

5) 各施設での研修内容と期間

専門研修（専攻医）3年間のうち，基幹施設である日本赤十字社医療センターで合計2年間の研修を行います．また，専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に選んだ連携施設・特別連携施設で，合計 1 年間の研修を行います．複数の連携施設・特別連携施設で研修する場合もあります（1つの施設につき3ヶ月以上）．Subspecialty 重点コースでは，合計1-2年間相当の subspecialty 研修をオーバーラップして行いますが（並行研修），あくまで内科専門医研修が主です．

6) 専門研修プログラム整備基準に示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である日本赤十字社医療センターの診療科別診療実績を以下の表に示します．日本赤十字社医療センターはコモンディジーズのみならず希少疾患も広くカバーしています．

表．日本赤十字社医療センター診療科別診療実績

2024年度実績	入院患者実数（人/年）	外来延患者数（延人数/年）
消化器内科	1,064	23,099
循環器内科	911	12,916
血液内科	1,002	24,733
糖尿病内分泌科	258	15,573
腎臓内科	429	16,951
呼吸器内科・感染症科	1,057	17,658
神経内科	197	8,256
化学療法科	204	3,030
膠原病・アレルギー内科	63	8,683
救急科	421	9,386
緩和ケア科	228	946

＊ 外来患者診療を含め，ほぼ全ての疾患群を網羅し，1学年8名に対し十分な症例を経験可能です．

＊ 13領域のうち11領域の専門医が少なくとも1名以上在籍しています（日本赤十字社医療センター内科専門研修プログラム　p.14「日本赤十字社医療センター内科専門研修施設群」参照）．

7) 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

日本赤十字社医療センター内科施設群専門研修では，主担当医として，患者を入院から退院まで受持ち，患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．

入院患者担当の目安：以下にローテーションの例を示します．ローテーションの順番や連携施設・特別連携施設での研修の詳細（合計 1 年間）は専攻医ごとに異なります．受持ち患者の重症度などを加味して，専攻医1人あたり5-10名程度を受持ちます．救急および総合内科分野は適宜，領域横断的に受持つほか，救急外来を通じて研修します．

内科標準コースの例

	専攻医1年目	専攻医2年目	専攻医3年目
4,5,6月	消化器	連携施設・特別連携施設	呼吸器
7,8,9月	循環器		神経
10,11,12月	代謝/内分泌		血液
1,2,3月	腎臓		膠原病/アレルギー/感染症

Subspecialty 重点コースの例（専攻 3 年目以外も subspecialty 並行研修を行うことがあります）

	専攻医 1 年目	専攻医 2 年目	専攻医 3 年目
4,5,6 月	消化器/膠原病/アレルギ	連携施設・特別連携施設	内科研修 + subspecialty 研修
7,8,9 月	循環器/血液		
10,11,12 月	呼吸器/感染/神経		
1,2,3 月	腎臓/代謝/内分泌		

8) 自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

1 年に複数回（8 月と 2 月を予定），定期的に自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います．必要に応じて臨時に行うこともあります．評価終了後，1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け，その後の改善を期して最善をつくします．

9) プログラム修了の基準

専攻医登録評価システム（J-OSLER）に以下の全てが登録され，かつ担当指導医が承認していることを本研修プログラム管理委員会が確認し，修了判定会議を行います．

1. 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群のすべてを経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができる）を経験することを目標とします．その研修内容を J-OSLER に登録します．但し修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで）を経験し，登録しなければなりません（別表 1「各年次到達目標」参照）．
2. 所定の受理された 29 編の病歴要約
3. 所定の 2 編の学会発表または論文発表
4. JMECC の受講
5. プログラムで定める講習会の受講
6. 指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）の結果に基づき，医師としての適性に疑問がないこと

本研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約 1 か月前に本研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います．修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長することがあります．

10) 専門医申請にむけての手順

1. 必要な書類：日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書，履歴書，研修プログラム修了証（コピー）
2. 提出方法：内科専門医資格を申請する年度の 5 月末日（予定）までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します．
3. 内科専門医試験：内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで，日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります．

11) プログラムにおける待遇，ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については，各研修施設での待遇基準に従います（日本赤十字社医療センター 内科専門研修プログラム p.14「日本赤十字社医療センター内科専門研修施設群」参照）．

12) プログラムの特色

本研修プログラムは，東京都第二次保健医療圏域・区西南部医療圏の中心的な急性期病院である日本赤十字社医療センターを基幹施設とし，専攻医は、当該医療圏，近隣医療圏，および地方都市にある連携施設・特別連携施設での内科専門研修を経て，超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるようにトレーニングされます．本研修では，主担当医として，患者を入院から退院まで受持ち，患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．基幹病院である日本赤十字社医療センターは，地域の病診・病病連携の中核であるとともに，地域に根ざす第一線の病院です．専攻医はコモンディジーズのみならず，複雑な病態を持った患者の診療経験や，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．さらには緩和ケア科の症例によって緩和・終末期ケアの経験もできることや、併設の訪問看護ステーションとの関係を通じてさらに多面的な観点を獲得できることも本研修プログラムの特色です．

日本赤十字社医療センターは豊富な症例を誇り，基幹施設および連携施設・特別連携施設での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患項目表)」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，120 症例以上を経験し， J-OSLER に登録できると考えられます．専門研修終了までには 29 症例の病歴要約を指導医の指導のもとに提出を完了し，70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 120 症例以上の経験をすることができます．（別表 1「各年次到達目標」参照)．

13) 継続した Subspecialty 領域の研修の可否

プログラム終了後は日本赤十字社医療センターでの常勤医としての勤務も可能で，それぞれの subspecialty 領域の研修も可能です（ただし，採用状況などによる)．

14) 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います．逆評価は 1 年に一度，定期的に行います．その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧し，集計結果に基づき，本研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善を行います．

15) 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします．

16) その他

特になし．

日本赤十字社医療センター内科領域専門研修プログラム　専攻医マニュアル

2017 年 2 月 16 日 Ver. 1. 0
2017 年 6 月 20 日 Ver. 1. 1
2018 年 3 月 15 日 Ver. 2. 0
2019 年 2 月 28 日 Ver. 2. 1
2021 年 4 月 12 日 Ver. 2. 2
2022 年 5 月 31 日 Ver. 2. 3
2023 年 5 月 15 日 Ver. 2. 4
2024 年 5 月 15 日 Ver. 2. 5
2025 年 4 月 21 日 Ver. 2. 1
2026 年 5 月 20 日 Ver. 2. 2

日本赤十字社医療センター内科専門研修プログラム

指導医マニュアル

(2026 年 5 月 20 日改訂)

1) 専攻医研修マニュアルの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

・1 人の担当指導医に専攻医 1 人が本研修プログラム研修委員会により決定されます.
・専攻医が Web 上の専攻医登録評価システム (J-OSLER) にその研修内容を登録し, 担当指導医は履修状況の確認をシステム上で行い, フィードバックの後にシステム上で承認をします.
・担当指導医は, 専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群 (研修手帳参照), 症例の内容について, その都度, 評価・承認します.
・担当指導医は, 専攻医と十分なコミュニケーションを取り, 研修の進捗状況を把握します. 専攻医は subspecialty の上級医と面談し, 専攻医が経験すべき症例について報告・相談します.

2) 専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法, ならびにフィードバックの方法と時期

・年次到達目標は別表 1「各年次到達目標」に示すとおりです.
・担当指導医は, 専攻医が専門研修 (専攻医) 2 年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促し, 内科専門医ボードによる査読・評価で受理 (アクセプト) されるように病歴要約について確認し指導を行います.
・担当指導医は教育研修推進室と協働して, 定期的に J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し, 専攻医による J-OSLER への記入を促します. また, 各疾患群の研修実績と到達度が充足していない場合は subspecialty の上級医と相談して, 担当医の割り振りを調整し, 当該疾患群の診療経験を促します.
・担当指導医は教育研修推進室と協働して, 定期的に病歴要約作成状況を適宜追跡し, 専攻医による病歴要約の作成を促します. また, 各疾患群内の病歴要約が充足していない場合は当該疾患群の診療経験を促します.
・担当指導医は教育研修推進室と協働して, 1 年ごとに所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.
・担当指導医は subspecialty の上級医や教育研修推進室と協働して, 1 年に複数回 (8 月と 2 月を予定), 定期的に専攻医の自己評価と指導医評価, ならびに 360 度評価を行います. 評価終了後, 1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い, 指導します. 2 回目以降は, 以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めてフィードバックを行い, 改善を促します.

3) 個別の症例経験に対する評価方法と評価基準

・担当指導医は J-OSLER での専攻医による症例登録に基づいて, 当該患者の電子カルテの記載, 退院サマリ作成の内容などを吟味し, 主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし, 承認を行います.
・担当指導医は主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として, 専攻医に J-OSLER での当該症例登録の削除, 修正などを指導します.

4) J-OSLER の利用方法

・専攻医による症例登録を担当指導医が評価・承認する際に用います.
・専攻医が作成し, 担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認する際に用います.

・日本内科学会二次評価査読委員（二次査読）による外部評価とフィードバックを受け、指摘 事項に基づく改訂がアクセプトされるまでの状況を確認する際に用います.
・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録，出席を求められる講習会等の記録について，各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握するために利用します．担当指導医と教育研修推進室はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します.
・担当指導医による専攻医の評価，メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価など，専攻医に対するフィードバックに利用します.
・担当指導医が専攻医の研修内容を評価し，修了要件を満たしているかを判断する際に用います.

5） 逆評価と J-OSLER を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を，担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します．集計結果に基づき，本研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

6） 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて，臨時で J-OSLER を用いて専攻医自身の自己評価，担当指導医による評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い，その結果を基に本研修プログラム管理委員会で協議を行い，専攻医に対して適切な対応を試みます．状況によっては，担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います.

7） プログラムならびに各施設における指導医の待遇

日本赤十字社医療センターおよび各施設の給与規定によります.

8） FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します．指導者研修（FD）フィードバック法の実施記録として J-OSLER を用います.

9） 日本内科学会作製の冊子内科指導医マニュアル・手引（改訂版）の活用

内科専攻医の指導にあたり，指導法の標準化のため，内科指導医マニュアル・手引（改訂版）を熟読し，指導します.

10） 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

11） その他

特になし.

日本赤十字社医療センター内科領域専門研修プログラム　指導医マニュアル

2017 年 2 月 16 日 Ver.1.0
2017 年 6 月 20 日 Ver.1.1
2021 年 4 月 12 日 Ver.1.2
2022 年 5 月 31 日 Ver.1.3
2023 年 5 月 15 日 Ver.1.4
2024 年 5 月 15 日 Ver.1.5
2025 年 4 月 21 日 Ver.2.1
2025 年 6 月 12 日 Ver.2.2
2026 年 5 月 20 日 Ver.2.3